

大崎市 鹿島台駅周辺地区

都市再生整備計画(第2回変更)

かしまいえきしゅうへんちく
鹿島台駅周辺地区

みやぎけんおおさまし
宮城県大崎市

平成26年2月

大崎市 鹿島台駅周辺地区

都市再生整備計画の目標及び計画期間

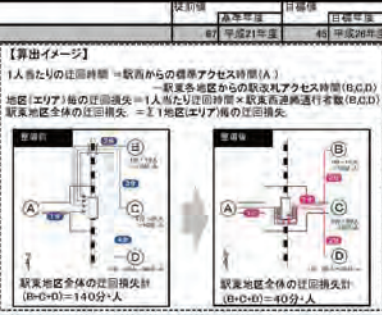
都市再生整備計画の名称	実施区域	市町村名	所在する大崎市	地区名	計画区域(鹿島台駅周辺地区)	面積	96 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度				

目標		指標		定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度				
大目標 大崎市の南の玄関口として、魅力あふれるにぎわいの市街地形成 目標① 玄関口にあふれる交通結節点の形成 目標② 駅東西の人々が行き交うにぎわい交流集点の形成 目標③ 駅を中心とした魅力あふれるコミュニティ拠点の形成		目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現状 ・本市は平成18年3月31日に旧古川市、旧松山町、旧三木木町、旧鹿島台町、旧若山山町、旧鴨子町、旧田尻町の7市町が合併により誕生した新市であり、仙台市から新幹線で16分に位置する、県北部の中心都市となっている。 ・鹿島台駅周辺地区は、本市の南の玄関口であるJR鹿島台駅を中心とした東西約30haの区域であり、仙台から電車でも9分という利便性に恵まれ、JR鹿島台駅の1日あたりの乗降客数が4千人を越す交通要衝を有している。 ・駅東側では人口増加により新しい市街地が形成され、周辺には公共施設が配置されている。更に、駅東側は国道346号バイパス事業が進められており平成25年3月供用することとなった。 ・このような状況の中で、JR鹿島台駅の改札口は既存市街地である西側だけであり、駅前広場も十分に整備されていないため、朝夕の通勤時には多行者、自転車利用者、車両が混在し、大衆的な状況となっている。 ・また、駅東西を連絡する施設として現在臨時的に水路に架かっていた渡道(仮管理)を多行者が利用しており、雨天時には水溜が上がり通行止めとなるなど、日常的な経路として代替機能が必要な状況にある。 ・市町村合併前より、旧鹿島台町として駅を核とした賑わいあふれる市街地の形成を図るため、駅東西多量で自由道路の整備・駅舎や東西駅前広場の整備、更には駅東側でのアクセス道路の整備が望まれていた。		課題 1) 駅前交通基盤の不足・・・東西とも駅前広場が未整備⇒P&R、K&R利用時に交通が滞り、安全面で問題/南の玄関口にあふれる「賑わい」が必要/駐車場・駐輪場が不足し、利用者に不便が生じている 2) 駅前側に分かれぬ地域構造・・・徒歩で歩ける範囲に商業、行政庁、集積に住宅が分散し、東西の住民は住民の生活にとって非常に重要で限られた駅北ガード(民権団)は閉鎖下であり、東西両側のための新たな歩道が必要 3) 過渡交通の混乱・・・駅前側では、過渡交通が駅区内へ流入し、充分なネットワークが確保されないため、駅アクセス道路との接続により安全面で問題(更新交差点等) 4) 多行者混雑の不足・・・西口駅前を含め、駅周辺の道路では歩道が確保されていない区間が多く、多行者の安全・快適な通行に支障がある 5) 交流・集いの空間の不足・・・全市に比べて高齢化の割合が高めであり、休養等もできる高層空間のニーズは高いが、既存の街並みでは不足している。 6) 市街地を含む商店街の老朽化・・・駅西口の駅前通りや市街地通り等は、住民だけでなく、来訪者も利用する地区のシンボルロードとして維持整備が必要		将来ビジョン(中長期) 【鹿島台駅前計画】平成23年 ・タウンホール・ステーション構想:まちの発展の歴史の中で大切な役割を果たしてきた駅の機能を再見直し、市民共有の場である中心市街地づくりと併せて、まちの中で「町並」となり、市民の生活にわたる魅力あふれる環境を支える (多目的市民交流場・東西自由道路整備・駅前広場整備) 【鹿島台駅前計画基本方針】平成24年 ・交通体系の整備方針:鹿島台駅の東西両口を結ぶ自由道路の整備を図る。 ・道路整備方針:二輪車/バイクから駅前口への新設道路を位置づけ整備を進め、また駅東口には専用車線が併設できる交通広場を整備する。 【第3次鹿島台駅前計画】平成25年 ・鹿島台駅前広場の整備:鹿島台町の玄関口として魅力にあふれる、にぎわいあふれる中心市街地の形成及び駅東地区の都市環境の改善を図るため、駅前広場整備にあわせて東西自由道路、駅舎を含む東西周辺地区の開発、駐車場などの総合的な整備を図る。 【大崎市総合計画】平成26年 ・自然と共生し環境に配慮したまちづくり・快適な生活環境の確保・整備 【市街地活性化推進プラン(鹿島台地域)】平成26年 ・南の玄関口にあふれるまちづくり(大崎市総合計画による地域づくりのテーマ) キーワード:地の利・五市・特産品・駅・歩いて楽しい・偉人・わらし・方向性:鹿島台駅周辺の交通結節点など、交通結節点の強化と、東西市街地の連続強化 他		1) 本市は地域拠点である駅へのアクセス向上を地区全体で高めることで、魅力あふれるにぎわいの市街地形成を目指す。 ・目標値は任意損失和・時間一整備前後での削減とす。 ・なお、本指標の評価にあたっては、「歩行者の東西移動に伴う満足度」と合わせて評価し、東西移動にもより利便性と快適性を総合的な評価を行う。 ・東西自由道路及び駅前東西多行者ネットワーク、過渡交通を組織する駅前広場の整備を行い、駅東西の人々が行き交うにぎわい交流集点の形成を目指す。 ・目標値は、快適な歩行環境のための様々な施策実施による相乗効果を得ることから自由道路整備後(1.2%)を上回る住民満足度30%とする。 ・西口駅前広場及び駅西交流広場の整備によりイベントの場が確保されることで、周辺住民の地域活性化への取組を促進し、駅を中心とした魅力あふれるコミュニティ拠点の形成を目指す。 ・地元は地域活性化やイベント開催を通して前向きであることから、交流広場の整備により可能な範囲で多くのイベントが開催されることとされる。 ・目標値は、平均的なイベント開催に係る期間(準備期間を含めて1か月程度)をもとに、イベント開催回数増加率とす。		87	平成21年度	45	平成28年度
駅改札へのアクセス損失時間	人・時間	(1)1人あたりの往回時間(分) ※駅西からの距離から往回時間(分)-駅東各地区からの駅改札アクセス時間(分) (2)往路(往路)毎の往回損失(人・分) ※1人あたり往回時間(分)×駅東西過渡交通人数(人) (3)駅東地区全体の往回損失(人・時間)÷東地区エリア毎の往回損失(人・時間)×全年度	・東西自由道路及び駅前東西多行者ネットワーク、過渡交通を組織する駅前広場の整備を行い、駅東西の人々が行き交うにぎわい交流集点の形成を目指す。 ・目標値は、快適な歩行環境のための様々な施策実施による相乗効果を得ることから自由道路整備後(1.2%)を上回る住民満足度30%とする。	5	平成18年度	50	平成26年度						
歩行者の東西移動に伴う満足度	%	・過年度住民アンケート(1112)の結果から新たな連絡道の整備は必要ないと回答した駅東地区住民の割合(5%)を想定とする ・事後評価については、駅東地区住民に対して「駅東西の移動に伴う満足・不満度」調査アンケートを実施	・西口駅前広場及び駅西交流広場の整備によりイベントの場が確保されることで、周辺住民の地域活性化への取組を促進し、駅を中心とした魅力あふれるコミュニティ拠点の形成を目指す。 ・地元は地域活性化やイベント開催を通して前向きであることから、交流広場の整備により可能な範囲で多くのイベントが開催されることとされる。 ・目標値は、平均的なイベント開催に係る期間(準備期間を含めて1か月程度)をもとに、イベント開催回数増加率とす。	4	平成21年度	8	平成28年度						
西口駅前広場を中心としたイベントの開催回数	回/年	・本指標は、地元による地域活性化への取組を促進しイベント開催回数によって評価し目標とする。 ・地元は地域活性化やイベント開催を通して前向きであることから、交流広場の整備により可能な範囲で多くのイベントが開催されることとされる。 ・事後完了後(準備)の対象地域におけるイベント開催回数を計画することで把握する											

大崎市 鹿島台駅周辺地区

(参考資料)指標設定根拠

指標	単位	目標値	高年度	目標値	目標年度	
駅西側へのアクセス確保時間	人・時間		67	平成21年度	46	平成26年度
基本的な考え方 ・現在、駅東西の移動には、駅北側の国道を利用していますが、この国道は駅西側から駅へ100m離れた位置にあるため、 駅を中心とした場合、迂回が生じています。 ・駅周辺の位置での東西自由通道の整備によって、駅東地区から駅西への最短経路が確保され、駅東地区における往面の解消が見込まれます。 ・一方、現在の鹿島台地区は西側から駅へ、駅周辺の新たな自由通路による往面が生じる可能性があります。 ・本指標は、この往面量を地区全体に換算するとして、 駅東地区の往面損失として定量化し評価するもの です。						
評価値の算定根拠 ・駅東地区をいくつかのエリアに区分し、その代表地点から駅西側を迂回して駅西側へ向かう所要時間を計算します。 ・各地点からの所要時間について、駅西側のアクセス時間を標準として、その差が、1人当たりの往面損失となります。 ・以上から、この往面損失に駅北ガード利用者数(利用車から算定)を乗じて 地区全体の往面損失(67人・時間) を算定根拠に用いることとします。						
目標値の算定根拠 ・東西自由通道の整備後の駅西側へのアクセス時間を、現状と同様に計算し、駅西側を基準とした往面損失を算定します。 ・往面損失の削減が算定されており、これに代替する道路が周辺に無いことから、現在の駅東地区利用者がそのまま東西自由通路を利用するものと仮定します。 ・以上から、本計画における本指標の目標値は、 往面損失46人・時間 に設定します。(整備前後で2割削減)						
調査方法 ・駅東地区に居住している「駅東西の移動経路の変化」のアンケートを実施します。 ・駅東地区についてアンケートの結果をもとに再集計を行い、整備前後で 2割以上の削減が達成されたかどうかで評価 を行います。 ・また、本指標の評価にあたっては、(2)の満足度と合わせて計測し、 実現可能性にもなる実現性・生活性向上の度合いを評価 するものとします。						
歩行者の東西移動に伴う満足度 ・現在、駅東西の移動には、歩道の無い又は地区間交通が往來する道路や、暗くて狭い道路を通らなければならず、 住居は心理的負担を強いられています。 ・東西自由通路及び東西駅間歩行者ネットワークの整備によって、通過交通を処理する幹線道路の整備を行うことにより、 安全で快適な移動環境が確保 され、駅東西の移動に伴う住民の心理的負担が軽減されるものと考えられます。 ・本指標は、この 住民の心理的負担の軽減度合いを満足度として定量化し評価 するものです。	%	50	平成19年度	90	平成26年度	
評価値の算定根拠 ・歩行者向けアンケート(118年度実施)の結果から、「 新たな道路整備の整備は必要ない 」と回答した 駅東地区住民の割合(5%) を算定根拠に用いることとします。						
目標値の算定根拠 ・駅東地区に居住している「駅東西の移動経路の変化」のアンケートを実施した結果、84.5%の方が東西自由通路の整備を必要と回答しています。 ・ただしその回答結果は自由通路の整備位置によって違いがあり、「現在の駅東地区」が40.2%、本計画である「駅西側」が41.9%、「位置指定なし」2.4%となっています。 ・このことから、本計画における東西自由通路の整備に列しては、「駅西側」を支持している41.9%については賛同をいただいたものと判断し、満足が得られるものと想定します。 ・本計画の目標としては、この 自由通路整備促進率(41.9%) への対応に加え、駅東地区の通過交通の緩和や歩行者ネットワークの確保による 相乗的な効果も期待 しています。 ・以上から、本計画における本指標の目標値は、 評価コースを上回る住民の満足度50% に設定します。						
調査方法 ・事後評価については、駅東地区住民に対して、「駅東西の移動に伴う満足・不満足」意向のアンケートを実施します。						
西口駅前広場を中心としたイベント開催回数 回/年		4	平成21年度	20	平成26年度	
基本的な考え方 ・現在、駅西側地区では年に1回の五右衛門、地元商工会によるイベントが開催されています。 ・ イベント開催に対する地元民の関心は高いものの、西口駅前広場周辺には祭り広場として利用可能な法的なスペースがなく、私有地を借りて開催のため、場所代等費用負担の面から、五右衛門のみにとどまっています。 ・ 地元民による地域活性化への取組が促進 する状況と伺っています。 ・西口駅前広場及び周辺地区に活用すること、 イベント広場として利用可能な環境が確保され、地元民の地域活性化取組が促進 するものと考えられます。 ・本指標は、 地元による地域活性化への取組が促進 するイベント開催回数により定量化し評価するものです。						
評価値の算定根拠 ・地元商工会による 駅前広場内でのイベント開催回数(年間開催数・4回) を算定根拠に用いることとします。						
目標値の算定根拠 ・駅前地区における地域活性化への地元民の関心は高く、イベントの開催に列しても非非に前向きです。 ・このことから、将来的には可能な範囲で多くのイベントが開催されるものと考えられます。 ・以上から、本計画における本指標の目標値は、平均的なイベント開催に係る期間(開催期間を念めて1.5ヶ月程度)をもとに、 イベント開催回数も回/年と設定 します。						
調査方法 ・事後評価については、事業完了後1年間の開催地域におけるイベント開催回数を計算することで把握します。 ・なお、本指標の評価にあたっては、イベントとして実施された地域の、地元商店街による駅前広場や自由通路の清掃・花壇といった、「おもてなし」の取組についても合わせて計測し、 地元民の地域活性化取組が促進 するものとします。						



大崎市 鹿島台駅周辺地区

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に含めたい主要な事業
1. 玄関口一本を貫いた交通種別高次の形成 ・鉄道を軸として東西ともに駅前広場が主要であり、P&R、K&R利用時に交通が滞りやすくなるなど安全面で問題が生じていることから、駅前広場整備として交通広場の両側を行う。 ・また、南の玄関口にふさわしい「顔」として、駅前商店街のある西口エリアに、鹿島台駅(橋上駅舎)や、駅前広場及び交流広場の整備を行う。 ・更に、既存施設で不足が生じている駐輪場の整備を行い、利用者がアクセスしやすい交通拠点として整備を行う。	・西口駅前広場整備事業(基幹事業/道路) ・駅前交流広場整備事業(基幹事業/道路) ・西口駅前広場バス停上層階整備事業(提案事業/地域連携支援事業) ・鹿島台駅前整備事業(提案事業/地域連携支援事業) ・駅西駐輪場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・駅前駐輪場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設)
2. 駅東西の人々が行き交うにぎわい交通高次の形成 ・鉄道を挟んで西側に商業・官公庁、東側に住宅が分布し、駅東西に分かれる地域構造となっていることから、地域住民の生活にとって非常に重要な東西連絡のための新たな動線として、東西自由通路の整備を行う。 ・※既得の駅北ガード(JR管理)は安全性の問題から将来閉鎖予定である。 ・また、駅東側では、地区内へ通過交通が流入し、駅アクセス交通との絡み合いが生じ、安全面で問題となっていることから、通過交通を分離し、地区内交通の円滑化を図る駅東東西側の整備を行う。	・駅東自由通路整備事業(基幹事業/高次都市施設) ・駅東東西連絡事業(1)(基幹事業/道路) ・西口駅前道路空間再生事業(基幹事業/高次空間形成施設) ・駅東水辺空間再生交通整備事業(基幹事業/公園(その他))
3. 駅を中心とした賑わいあふれるコミュニティ創生の形成 ・全市に比べて高齢化の割合が高めであることも踏まえ、ベンチ等を整備した林道スペースへのニーズが高い一方、既存の事業だけではその機能が不足していることから、西口駅前広場に隣接してイベントや持ち合わせに利用できるポケットパークを整備し、地域住民の憩いや交流の場を創出する。 ・老朽化が進む駅西側の駅前ビルは、地域住民に加え来訪者も利用する地区のシンボルロードとして維持補修を行う。	・駅西交流広場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設)
その他 ・大崎商工会議所会館支所では、地元商工会員や購買者並びに鹿島台商業高校等をメンバーとして「大崎市の南の玄関口～鹿島台駅前商店街～にぎわいのまちづくり事業」が平成21年度より3年間の事業として実施されており、地域全体で鹿島台駅を核としたまちづくりが進められている。	

大崎市 鹿島台駅周辺地区

市町村決定計画及び市町村施行国道等事業に関する事項

※該当がない場合は本シートをつける必要はない

市町村決定計画

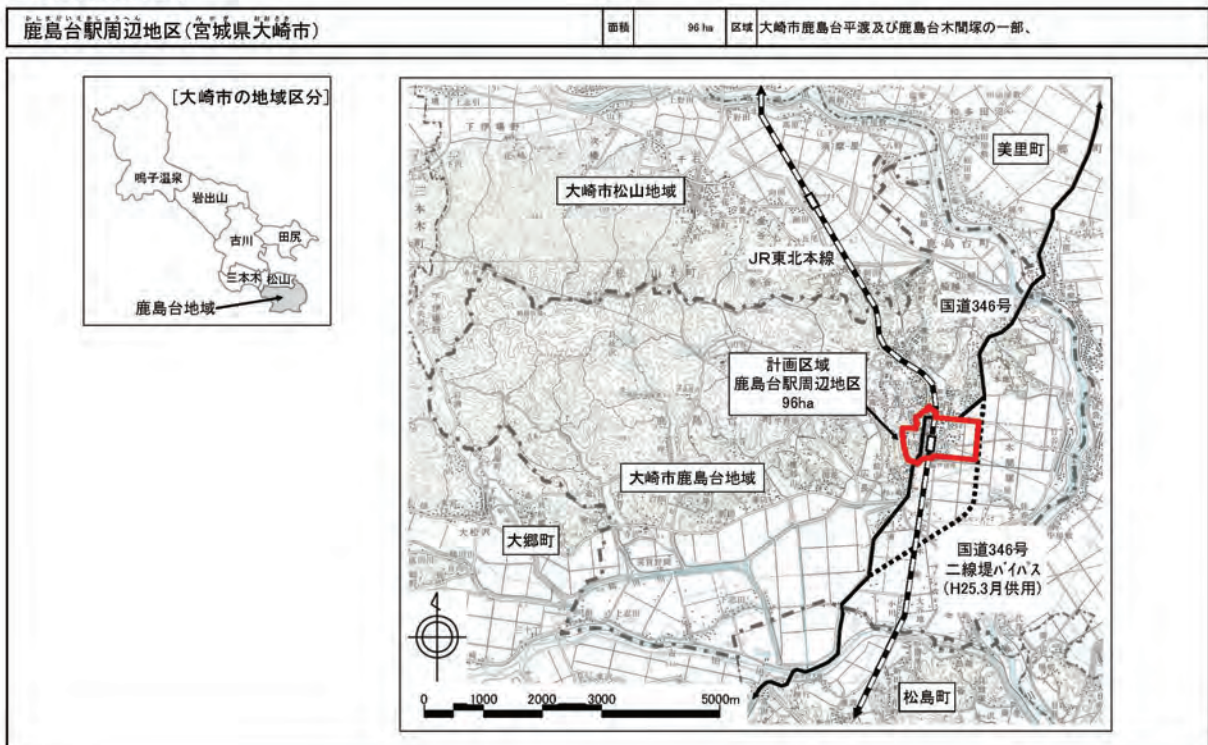
都市施設及び市街地開発事業の種類	決定/変更	名称	その他必要な事項	変更の概要	都市再生整備計画の公告(予定)年月日	都市計画の決定又は変更の期限

市町村施行国道等事業

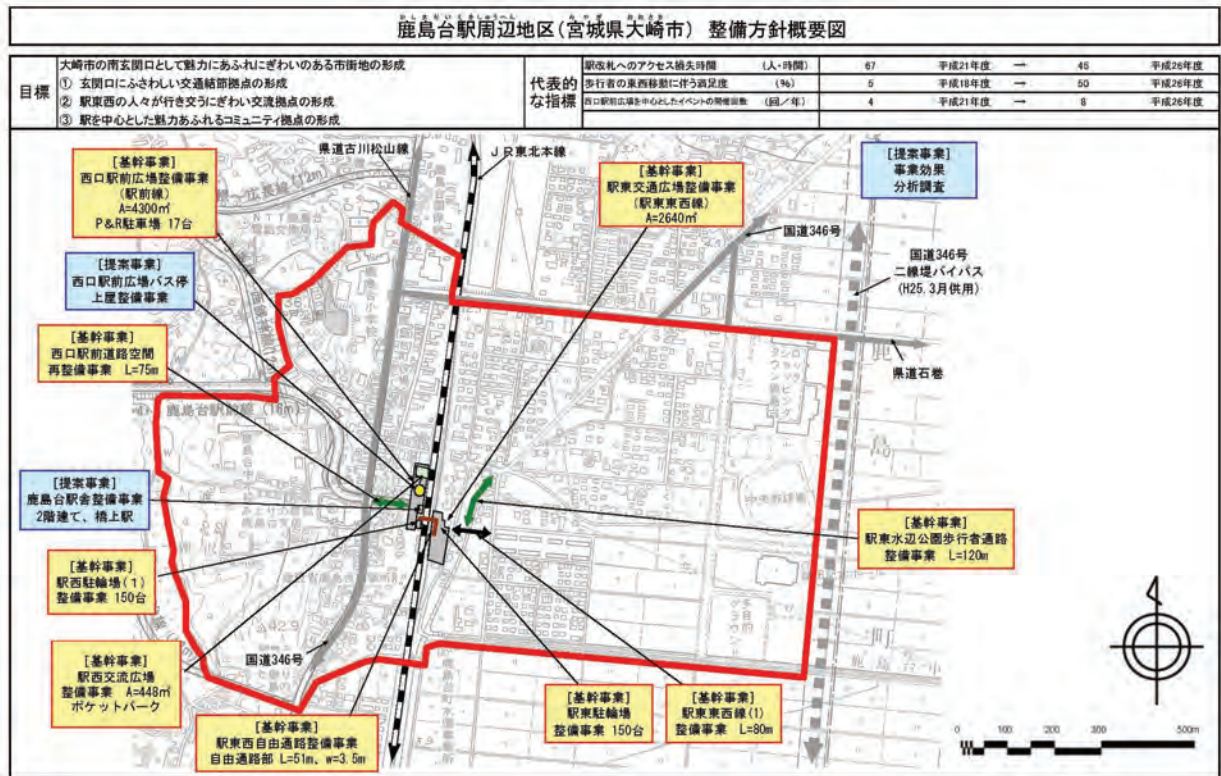
道路の種類	路線名	新設又は改築の内容
都道府県道	鹿島台停車場線	歩道の拡幅に関する改築

大崎市 鹿島台駅周辺地区

都市再生整備計画の区域



大崎市 鹿島台駅周辺地区



大崎市 鹿島台駅周辺地区

様式2

都市再生整備計画 事後評価シート

鹿島台駅周辺地区

平成28年3月
宮城県 大崎市

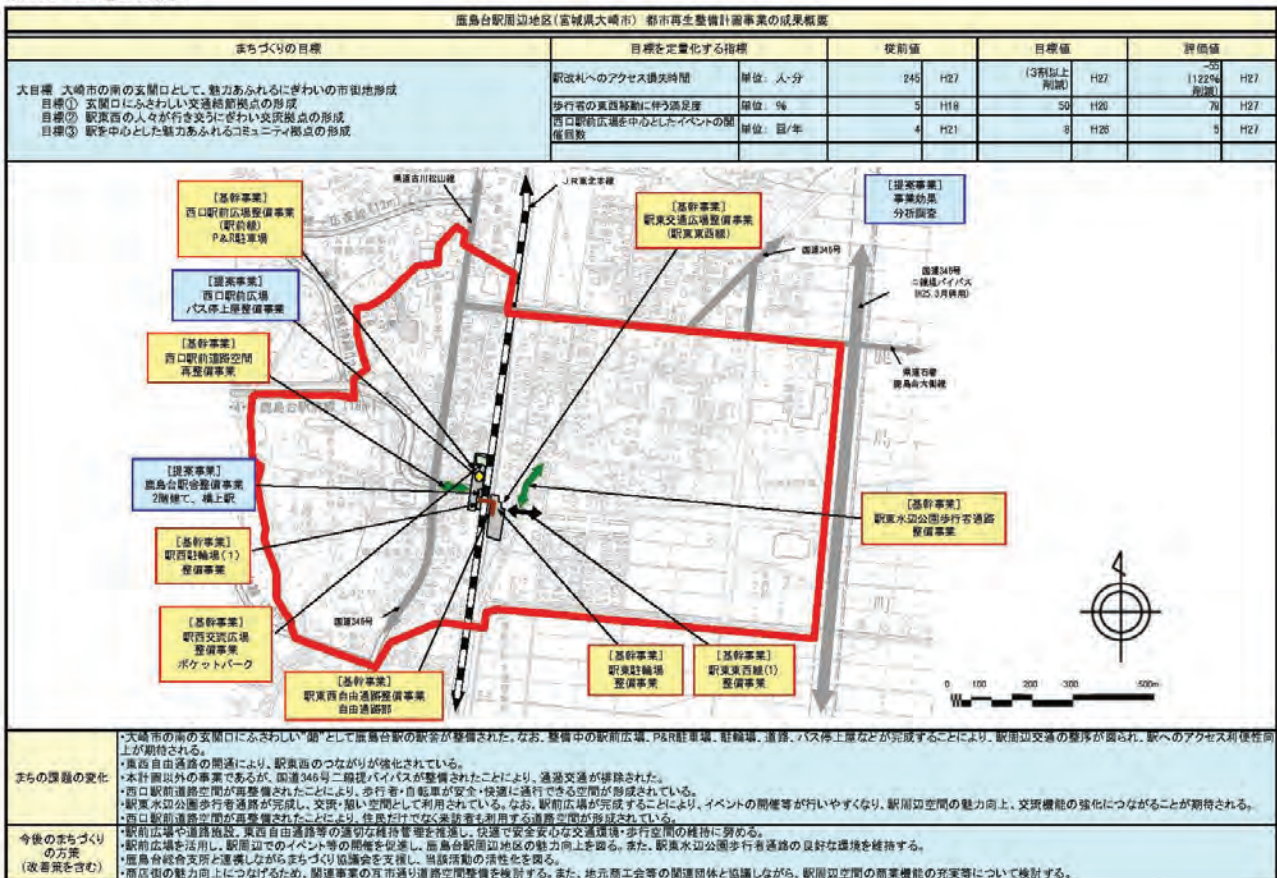
大崎市 鹿島台駅周辺地区

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮城県	市町村名	大崎市	地区名	鹿島台駅周辺地区	面積	90ha								
交付期間	平成22年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	2,293.1百万円	国費率	0.4						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 提案事業	事業名 道路(西口駅前広場整備事業(駅前線)、駅東交通広場整備事業(駅東西線)/駅東西線(1)整備事業)、公園その他(商店街広域水辺公園歩行者通路整備事業)、地域生活圏施設(駅東駅前整備事業/駅東駅前整備事業、駅西駅前整備事業、駅西交通広場整備事業)、高層立体駐車場施設(互車通り道路空間整備事業、西口駅前道路空間整備事業)、高次駅前施設(駅東西自由通路整備事業)												
	当初計画から削除した事業	基幹事業 提案事業	事業名 駅東西線の整備事業 削除/追加の理由 事業見直しのため 削減/追加による目標、指標、数値目標への影響 指標1, 2に到達するが、既存道路が代替機能を果たすことから、目標値は修正見込みとする												
	新たに追加した事業	基幹事業 提案事業	なし												
	交付期間の変更	当初 変更	平成22年度～平成26年度 平成22年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 事後評価において見込み値で評価する指標があるが、指標及び数値目標自体に影響なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	駅前礼へのアクセス損失時間	人・分	245	H27	(3割以上削減)	H27	-55 (122%削減)	○	あり	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	駅前自由通路や自由通路施設(駅前線)が整備され、駅前礼へのアクセスが向上している。そのため、自由通路施設整備に実施したアンケート調査によると、駅前礼へのアクセスが向上し、徒歩が減少している。事後評価時点(駅前広場の道路計画)整備事業であるため、全ての事業が完了した後にフォローアップして、駅東水辺公園歩行者通路整備事業として、引き続き効果を確認する。	フォローアップ 予定時期	平成28年度内
	指標2	歩行者の東西移動に伴う満足度	%	5	H18	50	H26	79	○	あり	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	駅前自由通路や西口駅前道路整備、駅前水辺公園整備事業が実施され、徒歩移動に関する駅前広場の整備により歩行者の満足度も向上している。そのため、自由通路施設整備に実施したアンケート調査によると、歩行者の東西移動に伴う満足度が向上している。指標1と併せて、全ての事業が完了した後にフォローアップして、アンケート調査を実施して、満足度を把握する。	フォローアップ 予定時期	平成28年度内
	指標3	西口駅前広場を中心としたイベントの開催回数	回/年	4	H21	8	H26	5	△	あり	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	西口駅前広場は完成しているが、H27の計画へのフォローアップによる、今後実施予定のイベントが実施されており、そのうち1回の開催回数などが達成されている。そのため、西口駅前広場の整備により、市民生活の活性化や観光振興が期待される。イベント開催回数が増加するものと想定される。今後、西口駅前広場の整備に併せて、フォローアップとして、H28年度のイベント開催回数を確認する。	フォローアップ 予定時期	平成28年度内
	指標4									あり	なし				
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値 モニタリング 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	その他の数値指標1					
4) 定性的な効果発現状況	大崎市の南の玄関口として、駅利用の利便性向上により、安心で通勤・通学できる環境が整い、居住都市としての魅力が向上した。 駅前自由通路が開通して、周辺の小中学校の通学路として利用されている。														
5) 実施過程の評価	モニタリング	なし	実施内容 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できなかった						今後の対応方針等						
	住民参加プロセス	【実施計画】平成16年6月～平成27年12月 【実施結果】鹿島台駅周辺地区にあり、地元に対して、整備目的や計画内容等を説明し、意見交換を行った。整備により地区内居住者の意向を把握するとともに、住民への理解を促すことができた。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できなかった						● 今後も地域住民や鹿島台駅舎を支える立場を重んじながら、整備後の利用状況について把握し、随時改善の方向性を検討する。						
	持続的なまちづくり体制の構築	鹿島台まちづくり協議会が中心となり、大崎市の南の玄関口として、安心で通勤・通学できる環境を整えるため、ワークショップを開催した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できなかった						● 今後も鹿島台駅舎を中心とした支援により、鹿島台まちづくり協議会の主体的なまちづくり活動を促進する。						

大崎市 鹿島台駅周辺地区

様式2-2 地区の概要



都市再生整備計画 事後評価フォローアップシート

鹿島台駅周辺地区

平成29年3月

宮城県大崎市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	駅改札へのアクセス損失時間	人・分 (事後評価時) 245 (フォローアップ時) 2,804	(3割以上削減)	-56 (122%削減)	確定 見込み ●	H27	あり なし	150 (95%削減)	H25年12月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	駅東西自由通路や西口駅前道路と接続した駅舎等が整備され、駅改札へのアクセス性が向上している。全事業完了後に実施したアンケート調査によると、駅東地区からのアクセス時間が短縮して、迂回損失が減少している。	
指標2	歩行者の東西移動に伴う満足度	%	6	50	79	確定 見込み ●	H26	あり なし	63	H25年12月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	駅東西自由通路や西口駅前道路整備、駅東地区公共施設が整備され、当該整備に係る地元説明会等の実施により住民の理解も得られている。全事業完了後に実施したアンケート調査によると、歩行者の東西移動に伴う満足度が上昇している。
指標3	西口駅前広場を中心としたイベントの開催回数	回/年	4	8	5	確定 見込み ●	H26	あり なし	11	H25年2月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	年間計11回のイベントや青少年体験が開催又は確定されており、地元住民の地域活性化の取組が進められ、イベント開催回数が増加している。
指標4					確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
指標5					確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定 見込み				H21年10		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標2					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に転換が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
A項 ・成果を継続させるために行う方策	駅前周辺交通基盤や駅東西自由通路等の適切な維持・管理	・駅前広場や道路施設、東西自由通路等の適切な維持管理の推進。	・快道で安全安心な交通環境・歩行空間が維持されている。
	交流・憩い空間の充実	・駅前広場を活用し、駅前周辺でのイベント等の開催の促進。	・鹿島台駅前周辺地区の魅力が向上している。
	まちづくり協議会活動の活性化	・意見を総合支所と連携しながら、各種団体との協議・支援。	・まちづくり協議会等の各種団体の活性化が図られている。
B項 改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	五市通りを含む周辺部の老朽化への対応	—	—

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

大崎市 鹿島台駅周辺地区

鹿島台駅周辺地区 都市再生整備計画事業
事後評価 説明資料
(事業概要)

大崎市 建設部 建設課

鹿島台駅周辺地区 事業概要① 課題及び目標・指標

まちの課題（申請時）

- 課題1：駅周辺交通基盤の不足
- 課題2：駅東西に分かれる地域構造
- 課題3：通過交通の流入
- 課題4：歩行者動線の不足
- 課題5：交流・憩い空間の不足
- 課題6：互市通りを含む商店街の老朽化

課題を解決するために設定した目標

- 大目標：大崎市の南の玄関口として、魅力あふれるにぎわいの市街地形成
- 目標①：玄関口にふさわしい交通結節拠点の形成
- 目標②：駅東西の人々が行き交うにぎわい交流拠点の形成
- 目標③：駅を中心とした魅力あふれるコミュニティ拠点の形成

目標を定量化する指標

	指 標	単 位	従前値	目標値
指標1	駅改札へのアクセス損失時間	人・分	245 (H27)	3割以上削減 (H27)
指標2	歩行者の東西移動に伴う満足度	%	5 (H18)	50(H26)
指標3	西口駅前広場を中心としたイベントの開催回数	回/年	4 (H21)	8(H26)

1

鹿島台駅周辺地区 事業概要② 事業メニュー

都市再生整備計画の交付金を活用した事業

基幹事業

事業名	事業期間	事業費 (百万円)	
道路	西口駅前広場	～平成28年度	193.6
	駅東交通広場	～平成28年度	171.2
	駅東東西線(1)	～平成28年度	121.4
公園	鹿島台駅東水辺公園	～平成27年度	9.7
地域生活基盤施設	駅東駐輪場、駅西駐輪場・交流広場	～平成28年度	80.1
高質空間形成施設	西口駅前道路空間	～平成27年度	2.2
高次都市施設	駅東西自由通路	～平成27年度	1,263.8
合計			1,842.0

提案事業

事業名	事業期間	事業費 (百万円)	
地域創造支援事業	西口駅前広場バス停上屋整備事業	～平成28年度	25.8
	鹿島台駅舎整備事業(市負担分)	～平成27年度	444.8
事業活用調査	事業効果分析調査	～平成27年度	2.5
合計			473.1

大崎市 鹿島台駅周辺地区



2

大崎市 鹿島台駅周辺地区

鹿島台駅周辺地区 事業概要④ 事業写真

■西口駅前広場	■駅東交通広場	■駅東東西線
↓	↓	↓

鹿島台駅周辺地区 事業概要④ 事業写真

■鹿島台駅東水辺公園 (整備前)



(整備後)



■駅東駐輪場、駅西駐輪場・交流広場 (整備後)

<整備後 (駅東駐輪場：北側)>



<整備後 (駅東駐輪場：南側)>



<整備後 (駅西駐輪場：北側)>



鹿島台駅周辺地区 事業概要④ 事業写真

■駅東駐輪場、駅西駐輪場・交流広場 (交流広場)



■西口駅前道路空間



■西口駅前広場バス停上屋整備事業



鹿島台駅周辺地区 事業概要④ 事業写真

■ 駅東西自由通路

<整備後（自由通路）>



<整備後（自由通路東口階段）>



<整備後（自由通路西口2階）>



鹿島台駅周辺地区 事業概要④ 事業写真

■ 鹿島台駅舎整備事業

（西口）（整備前）



（東口）（整備前）



<整備後（橋上駅舎）>



（整備後）



（整備後）



鹿島台駅周辺地区 都市再生整備計画事業

事後評価 説明資料

(事後評価)

大崎市 建設部 建設課

1. 鹿島台駅周辺地区 課題及び目標・指標

まちの課題（申請時）

- 課題1：駅周辺交通基盤の不足
- 課題2：駅東西に分かれる地域構造
- 課題3：通過交通の流入
- 課題4：歩行者動線の不足
- 課題5：交流・憩い空間の不足
- 課題6：互市通りを含む商店街の老朽化

課題を解決するために設定した目標

- 大目標：大崎市の南の玄関口として、魅力あふれるにぎわいの市街地形成
- 目標①：玄関口にふさわしい交通結節拠点の形成
- 目標②：駅東西の人々が行き交うにぎわい交流拠点の形成
- 目標③：駅を中心とした魅力あふれるコミュニティ拠点の形成

目標を定量化する指標

	指 標	単 位	従前値	目標値
指標1	駅改札へのアクセス損失時間	人・分	245 (H27)	3割以上削減 (H27)
指標2	歩行者の東西移動に伴う満足度	%	5 (H18)	50(H26)
指標3	西口駅前広場を中心としたイベントの開催回数	回/年	4 (H21)	8(H26)

2. 成果の評価

指 標		従前値	目標値	評価値 (H27) 事後評価	評価値 (H28) フォローアップ	目標 達成度
指標 1	駅改札へのアクセス損失時間 単位： 人・分	(事後評価時) 245 (フォローアップ時) 2,804	(3割以上削減)	-55 (122%削減)	150 (95%削減)	○ 達成
指標 2	歩行者の東西移動に伴う満足度 単位： %	5	50	79	63	○ 達成
指標 3	西口駅前広場を中心としたイベントの開催回数 単位： 回/年	4	8	5	11	○ 達成

※H27年度は、鹿島台駅利用者を対象に聞き取り・アンケート調査を実施（有効回収数：405票）
H28年度は、鹿島台駅周辺地区の全世帯を対象にアンケート調査を実施（有効回収数：796票）

3. 実施過程の評価

住民参加プロセスの実施状況

・地元関係者打ち合わせ、工事説明会の実施



<今後の対応方針等>

・整備後の利用状況について把握し、随時改善の方向性を検討

持続的なまちづくり体制の構築状況

・鹿島台駅・駅周辺整備事業ワークショップの開催



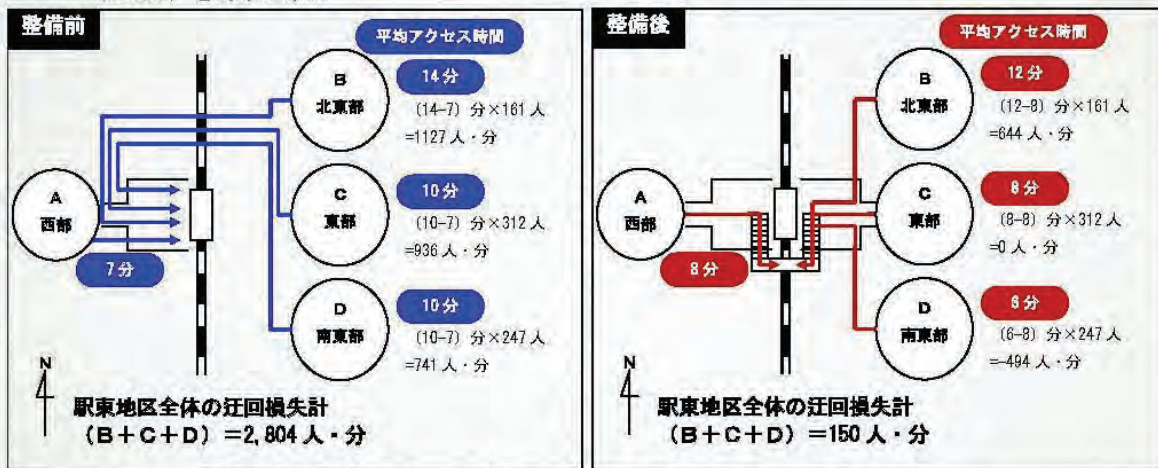
<今後の対応方針等>

・鹿島台まちづくり協議会等の主体的なまちづくり活動を促進

4. 効果発現要因の整理①

指標1 駅改札へのアクセス損失時間の評価

※鹿島台駅周辺地区の全世帯を対象にしたアンケート調査結果より、駅東地区の徒歩・自転車利用者(720人)を対象に集計



削減率：削減迂回損失時間 / 整備前迂回損失時間 × 100
 = (2,804 - 150) / 2,804 × 100 = 95 (%)

【効果発現要因(総合所見)】

駅東西自由通路や自由通路と直結した駅舎等が整備され、駅改札へのアクセス性が向上している。

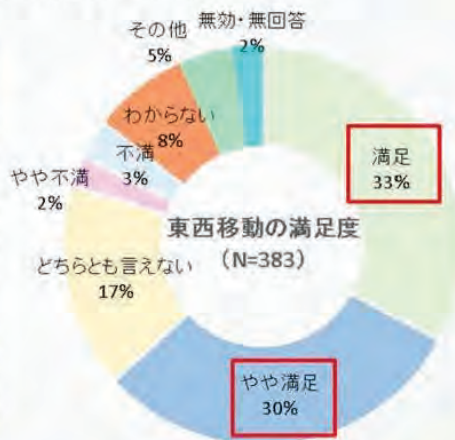
4. 効果発現要因の整理②

指標2 歩行者の東西移動に伴う満足度の評価

※鹿島台駅周辺地区の全世帯を対象にしたアンケート調査結果より、駅東地区の回答世帯(383世帯)を対象に集計

【駅東地区】東西地区間の移動について

地区	満足度(「満足」「やや満足」の合計割合)
北東部	56 / 53.3%
東部	92 / 60.1%
南東部	94 / 75.2%
駅東地区計	242 / 63.2%



【効果発現要因(総合所見)】

駅東西自由通路や西口駅前道路空間、駅東水辺公園等が整備され、当該整備に関する地元説明会等の実施により住民の理解も得られている。

4. 効果発現要因の整理③

指標3 西口駅前広場を中心としたイベントの開催回数の評価

- ・グランドオープンセレモニー 1回 (H28年10月)
- ・互市の開催 2回 (H28年11月、H29年4月)
- ・わらじフェス 1回 (H29年8～9月)
- ・朝ミニ互市 7回 (H29年4～10月：月1回)
- ・その他：ラジオ体操 (毎週日曜日)

⇒年間計11回のイベントやラジオ体操が開催又は
確定

【効果発現要因(総合所見)】

地元住民の地域活性化の取り組みが行われ、イベント開催回数が増加している。

5. 事後評価原案の公表の妥当性

事後評価原案の公表

<平成28年2月10日～2月29日(20日間)>

- ・市のホームページに掲載
- ・公表に先立ち、広報誌2月号に市のホームページで原案を公表している旨を掲載(パブリックコメント募集の掲載)

住民意見

- ・事後評価原案の公表期間に住民からの意見を募集していたが、今回の公表に対して住民からの意見はない

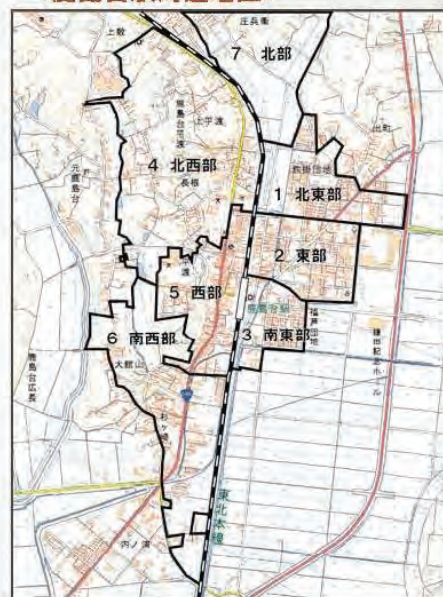
6. 今後のまちづくり方策

今後のまちづくり方策		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
成果を持続させるため に行う方策	駅周辺交通基盤や駅東西自由通路等の適切な維持・管理	・駅前広場や道路施設、東西自由通路等の適切な維持管理の推進。	・快適で安全安心な交通環境・歩行空間が維持されている。	
	交流・憩い空間の充実	・駅前広場を活用し、駅周辺でのイベント等の開催の促進。	・鹿島台駅周辺地区の魅力が向上している。	
	まちづくり協議会活動の活性化	・鹿島台総合支所で連携しながら、各種団体との協議・支援。	・まちづくり協議会等の各種団体の活性化が図られている。	
改善策	互市通りを含む商店街の老朽化への対応	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の魅力向上につなげるため、関連事業の互市通り道路空間整備を検討する。 ・地元商工会等の関連団体と協議しながら、駅周辺空間の商業機能の充実等について検討する。

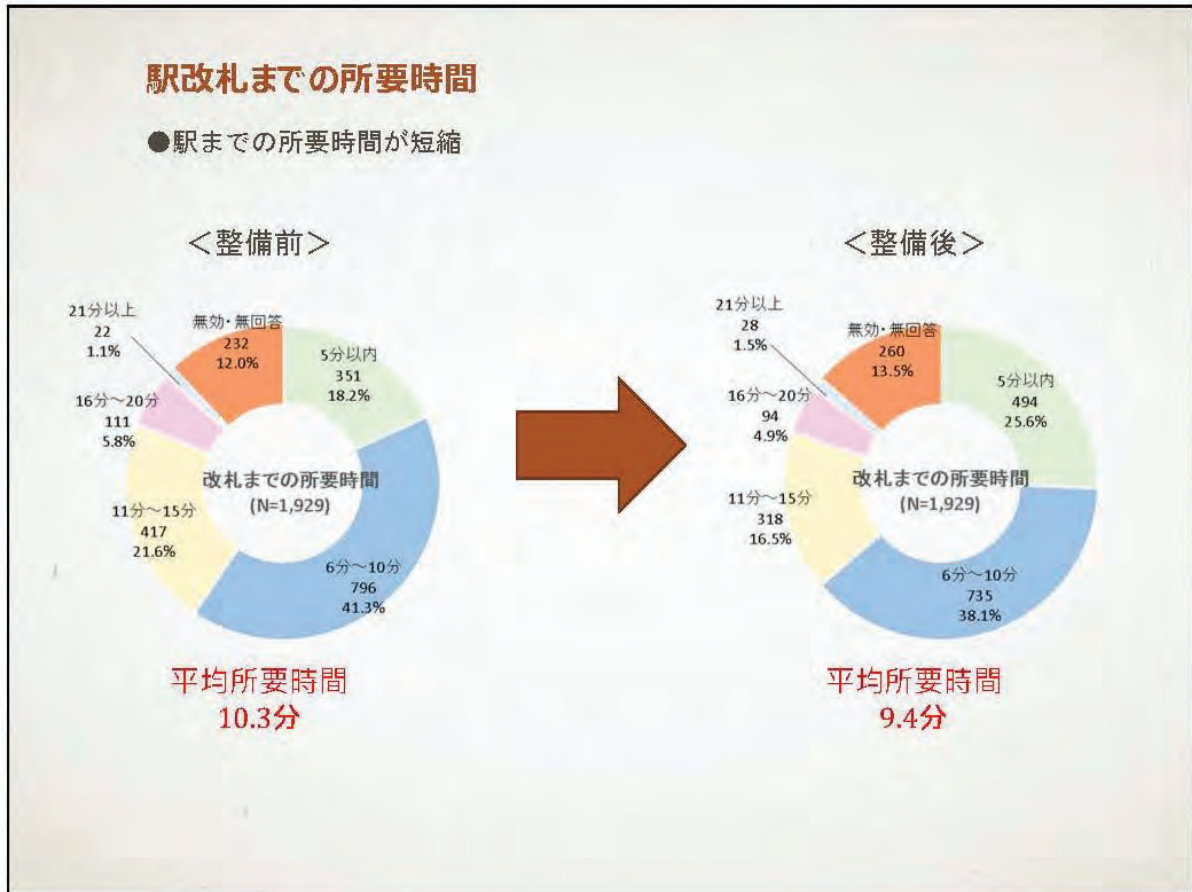
参考資料：アンケート調査結果概要

- ①調査目的：「鹿島台駅周辺地区都市再生整備計画」の事後評価（フォローアップ）に係る指標の確定値算出、および住民の事業への評価等の把握
- ②調査期間：平成28年11月18日～平成28年12月4日（※有効票は12月31日回収分までとした）
- ③配布回収：郵送配布、郵送回収
- ④配布数：2,048通（鹿島台駅周辺地区の全世帯）
- ⑤回収率：約39%（796通回収）

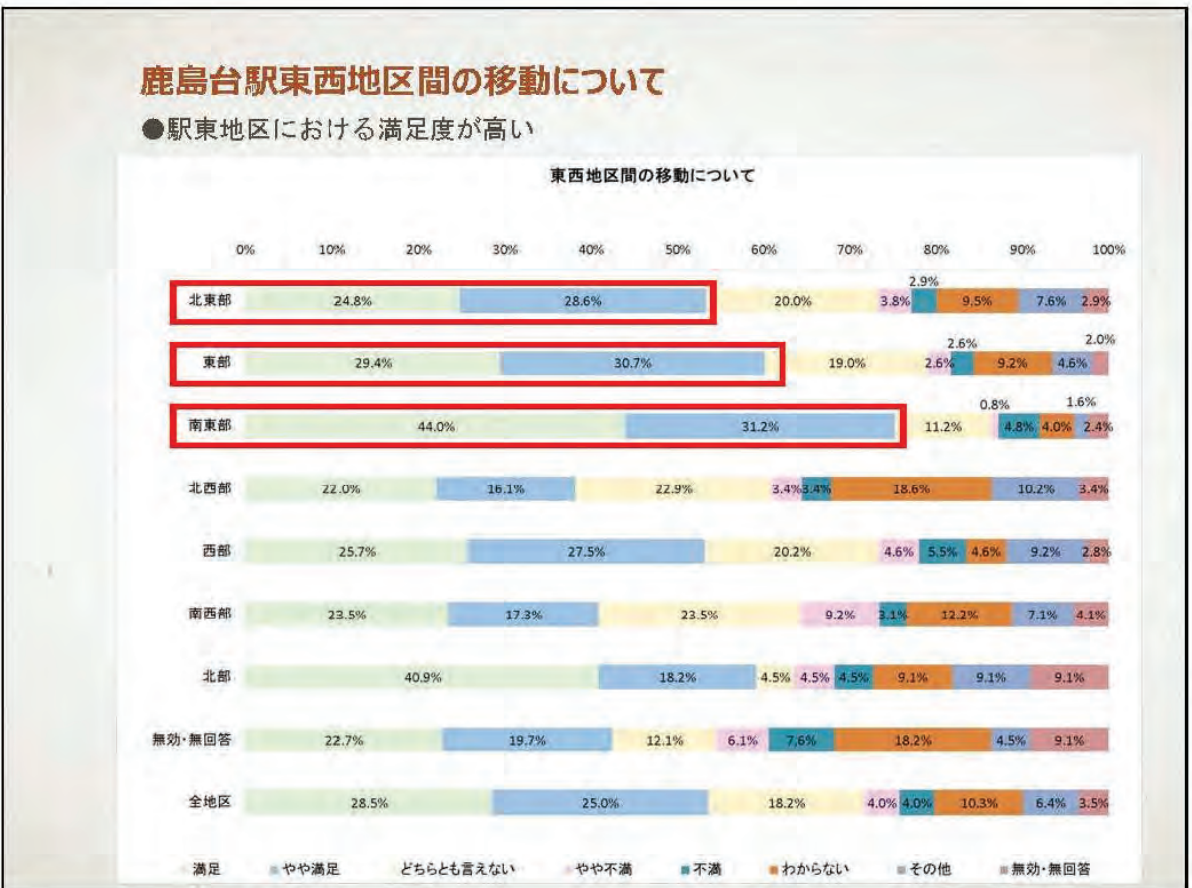
＜鹿島台駅周辺地区＞



大崎市 鹿島台駅周辺地区



大崎市 鹿島台駅周辺地区

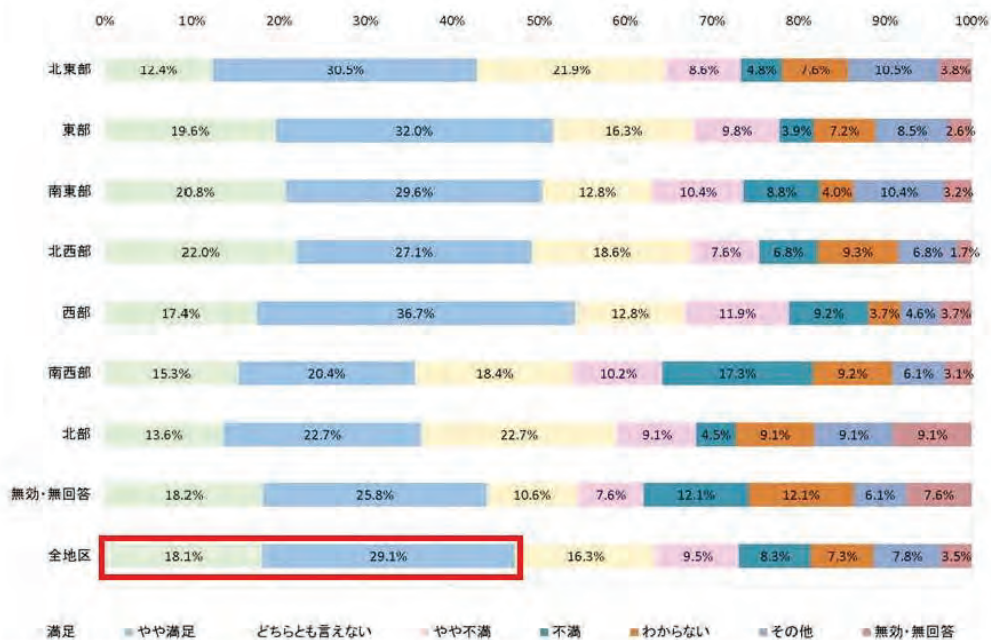


大崎市 鹿島台駅周辺地区

鹿島台駅周辺整備について

●地区によってバラツキがあるが、全地区では「満足」「やや満足」が概ね半数

鹿島台駅周辺整備について

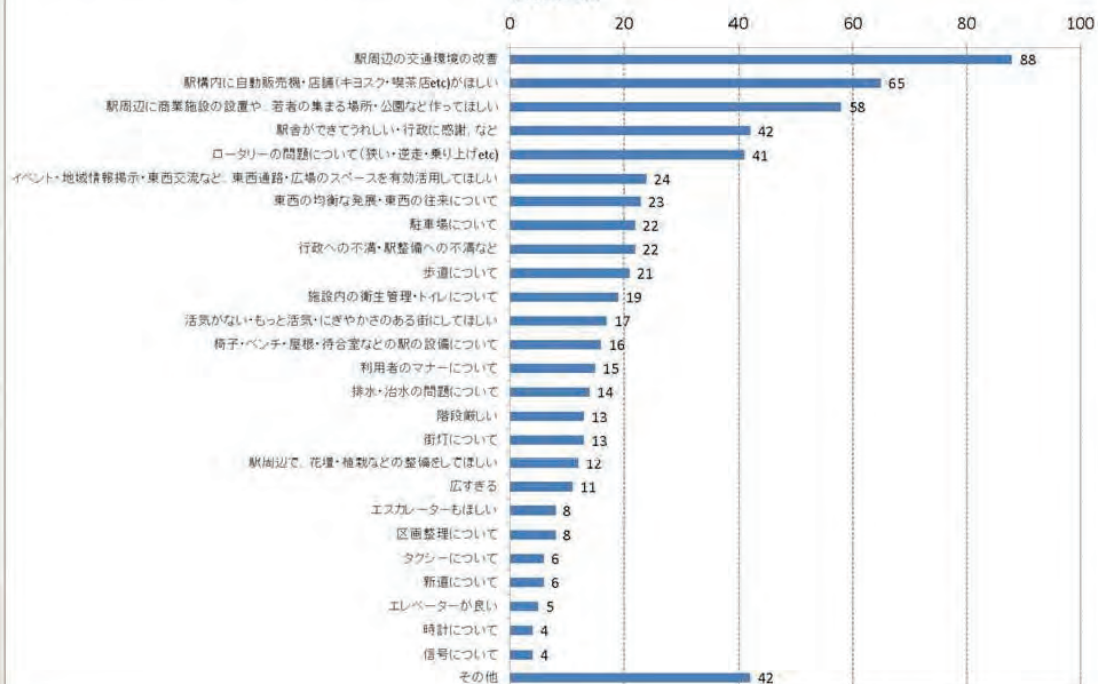


大崎市 鹿島台駅周辺地区

自由意見

●駅周辺の交通環境の改善や駅構内・駅周辺への商業施設等の立地が望まれている

自由回答



大崎市 鹿島台駅周辺地区



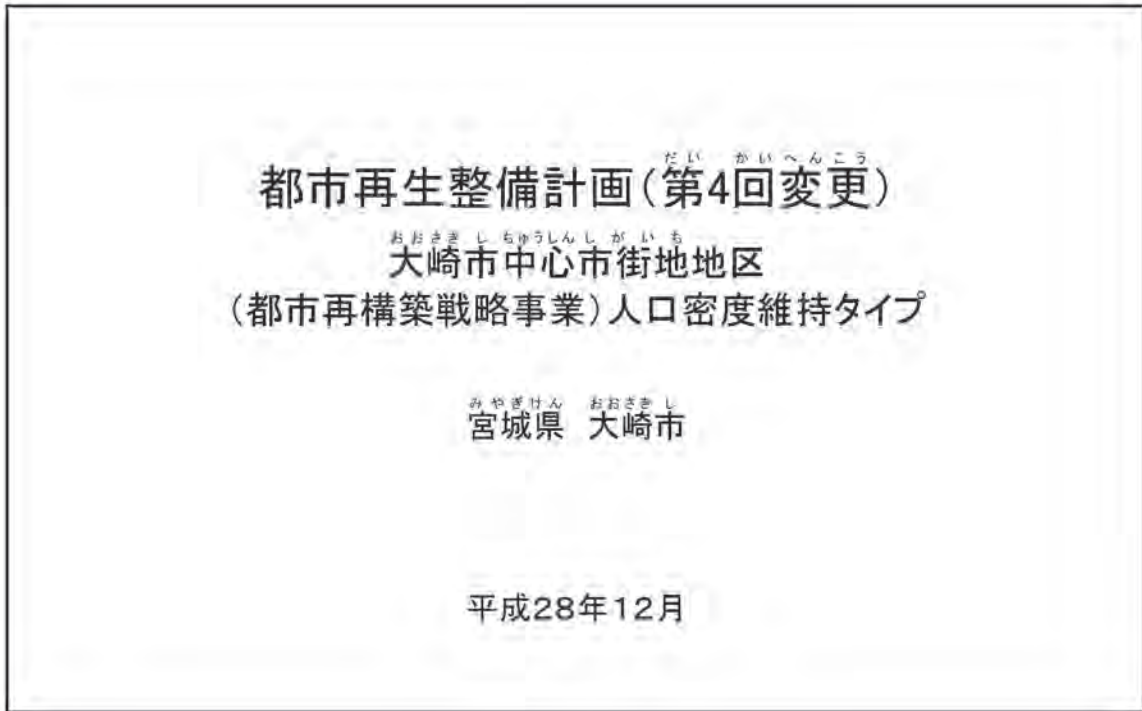
東西自由通路 整備後

大崎市 鹿島台駅周辺地区



駅前広場 整備後

大崎市 大崎市中心市街地地区



大崎市 大崎市中心市街地地区

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	宮城県	市町村名	大崎市	地区名	大崎市中心市街地地区(都市再構築戦略事業)	面積	95	ha							
計画期間	平成	25	年度	～	平成	28	年度	交付期間	平成	25	年度	～	平成	28	年度

目標

大目標として都市機能の再構築と歩いで遷らせる社会基盤の整備による利便性が高く魅力あるまちづくりとします。
 目標1 利便性が高く安全安心な魅力ある都市機能の再構築
 目標2 公益施設・交流拠点へのアクセス機能強化

目標設定の根拠

都市全体の再構築方針(都市機能の分散防止のための公的不動産の活用の方針を含む。当該都市全体の都市構造の再編を図るための再構築方針)

本市では、平成5年に入り国道4号バイパスなどの広域幹線道路で大規模小売店の誘引立地が進み、中心市街地の空洞化が進んだが、平成11年に古川一筋開通バスが開業すると大崎側の購買層が古川圏域へ流出し、空洞化が加速した。しかしながら、中心市街地はこれまで宮城県北の商業中心地として栄えた歴史から、交通の要衝として広域圏よりの道路網が整備されており、まちなか商店街連りが発達し、一部区間では電線地中化が進んでいるなど高質なインフラが整備されている。

このような大崎市中心市街地の交通結核の優位性と既存インフラの富強を基とし、従来のまちの魅力を掘り出し都市の再構築を図ることで、利便性の高い都市への再生が可能である。

計画では、JR東北横貫線である古川駅から市役所までの中心市街地を「中心市街地」として位置づけ、公益施設の再構築・再配置とそれに伴う道路の整備、そして古いまちの残る観光拠点「醸造」一筋終結川周辺の環境整備による特徴あるまちづくりで魅力ある街を形成し、拠点施設への集客のまちなかへの回遊でにぎわいの醸成を図る。また、人口の急激な減少と高齢化を背景に高齢者や子育て世代によって安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすること多目的として医療・福祉施設、商業施設や住居等がまるとして立地し、高齢者を呼ぶとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、「コンパウトシティプラス・ネットワーク」の考えのもとこれらの都市づくりを進めていくために地産地消計画を策定する。

- ・公的不動産の活用策として、誘引移転した合庁庁舎跡地を活用し、図書館を古川駅前に移転することで、利用者の利便性を高める中心市街地への新たな交流人口の集積を図ると共に、駅から新図書館までのアクセシビリティを強化する。
- ・都市手帳づくりの観光拠点「醸造」を中心とした終結川周辺の環境整備を進め、まちの魅力を掘り出し交流人口の拡大を図る。
- ・終結川周辺の観光拠点整備と、老朽化した市役所の建て替えも計画されているため連携させ周辺の交通ネットワークを改善し、公共・公益サービス機能の強化と利便性を高める。平成26年度には大崎市民病院が市街地外縁部に開院することがあり、路線バスの運用が予定されており、市街地外縁部と中心市街地の公共サービス機能の連携も図られる。
- ・市役所は災害時の中核となるため、広域防災拠点を整備し防災機能強化を図る。

本市は、中心市街地活性化の取組として、これまで再開発事業により観光拠点である「終結川周辺商業施設(醸造)整備」、「高台商業施設(リオーネ)整備」と周辺の「古川地区市街地再開発事業」の地産地消を実現している。日本最大震災を受け、平成24年度は「防災力の強化」と「活力にまわい創出」の観点から新たにまちづくり計画を行っており、地元及び学識経験者で構成する委員会により復興まちづくり計画を策定している。市街地においては、市民病院・図書館といった公共施設の老朽化が目立ち、災害時の機能の脆弱性が懸念される。また駅から市役所までは商店街連りが東西南北に発達し、空洞化に伴う空き店舗等が目立つものの、無電化一部は完了しておりまちの骨格となるインフラ整備が概ね進んでいる。しかしながら多岐の無い道路も多く、また公園が少ないため歩行環境の改善が求められている。観光拠点である終結川周辺の「醸造」は、平成25年度より観光情報センター事業が予定され「まちの賑わい」を定めていく。既成市街地外縁部で区画整理事業が行われた「醸造の園」では、高速鉄道駅直結と大崎市民病院が平成26年度開業予定である。病院は東北自動車道に近く宮城県北の広域圏からの利用が想定される。

課題

- ・多岐化した市役所・図書館の経営による都市機能の再構築と、それに伴う公共施設跡地の有効活用とアクセシビリティ向上。
- ・安全安心な暮らしのための防災機能強化。
- ・中心市街地の移となる商業施設、公益公共施設の利便性向上と、まちなかの回遊性の向上。
- ・古いまち並みなど歴史的資産・地域資産のまちづくりへの取り込み。
- ・安心して歩ける歩行空間の確保。
- ・郊外の自家用車を利用できない高齢者が日常生活に必要なサービスを受けることができるための主要機能の中心市街地への集約。

将来ビジョン(中長期)

- 【総合計画】
- ・本地区の中心市街地のある古川地区は、「交流・連携・協働の拠点」として掲げられている。
- 【震災復興計画】
- ・本地域については、安全安心なまちづくりとして「復興」にまわい創出「情報伝達機能の強化」が、呼びあがることと復興として「まちなか再生・活性化、伝統・文化の継承」が、連携と交流による新たな大崎の再生として「広域な立地性基盤とした都市づくり」が掲げられている。
- 【都市計画マスタープラン】
- ・本地域はまちなか居住の推進、安全安心な市街地の形成、商店街の集約・活性化、街並み景観の維持形成を都市づくりの方針としている。
- 【復興まちづくり計画】
- ・中心市街地の計画として、「まちの歴史を継承し(語り継ぐ)」「安全安心な暮らしと活力再生の拠点整備」「人とまちをつなぐ(まちなか回遊路とまちの賑わい)」をまちづくりの基本方針としている。

大崎市 大崎市中心市街地地区

都市再構造成果事業の計画							
<p>都市機能配置の考え方</p> <p>既成市街地外縁部については、高層ビルインターチェンジに近いという利便性を活かして市民病院が建設されるため、医療機能について中心市街地と連携を図る。</p> <p>・中心市街地は、歴史的に広域圏の中心都市であった経緯から鉄道駅やバスターミナルといった公共交通の結節機能、商店街の集積といった暮らしに即した商業機能や図書館、小中学校、市役所等の公共施設機能もより育っている。現在交通利便性の高い位置にある図書館をJR古川駅近くに移転することで教育文化機能の充実、利便性及びアクセシビリティの向上、そして駅と連動した交通機能の発展促進を図る。また観光拠点となる結核川周辺等については、今後の市役所移設に伴う周辺整備と一体的に整備し、市民が憩いと寄り添うような魅力あるまちの再生を図る。</p>							
<p>都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な中心市街地活性化及び生活拠点誘導計画の考え方</p> <p>中心市街地を「中心市街地」とし、「中心市街地誘導地区」として、集積の増進される図書館を駅近くに再構築し駅を利用した市民の利用を促すとともに、利用者のまちなが連携を図る。更なる複合利用や誘導地を有効活用する。未利用地の活用による都市機能の拡充防止を図りつつ、中心市街地における公共・社会サービスを確保強化する。</p>							
<p>都市再生整備計画の目標を達成するために必要な交付対象事業</p> <p>柱となる公共施設の周辺環境整備と道路改良によるアクセシビリティの向上で、各施設の能力と利便性を高め拠点施設の連携効果による利用者のまちなが誘導を図る。また地域防災施設等の整備により中心市街地の防災機能高め、安全安心な都市機能の構築を図る。</p>							
目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関係性	設前値	基準年度	目標値	目標年度
まちなか通行者数	人/日	施設来訪者の中心市街地回遊性について、各ポイントにおけるまちなか多歩行者数計数	中心市街地の通行者数増加は、安心して通行できる多歩行者の創出に寄与しまちなか多歩行者数が増加することを示す。	6,410	H23	7,000	H28
中心市街地の公共施設利用率	人/年	中心市街地内における図書館(図書部・読書・リポート)利用率の比較	公共施設の利用率数増加は魅力ある都市機能の再構築がなされていることを示す。	787,700	H23	946,000	H28
防災情報伝達距離	個/年	公共施設におけるデジタル防災無線を使った防災訓練	防災訓練の実施による防災意識の向上と信頼性確保、安全安心な都市機能の再構築がなされていることを示す。	0	H23	1	H28

大崎市 大崎市中心市街地地区

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に適合する主要な事業
<p>【分区分割・交通拠点へのアクセシビリティ強化】</p> <p>・JR古川駅に近い各回行先誘導に寄与した図書館を駅近くに再構築し駅を利用した施設利用の利便性を高めるとともに、図書館利用者には学生が多く駅からの歩行距離が短くなることを想定して、駅と図書館を結ぶ道路について快適な多歩行者空間を創出し、駅周辺の回遊性を高めるとともに魅力ある空間を創出する。</p>	<p>・中心市街地誘導施設(図書館)</p> <p>・道路改良(市道東海田沿線)</p>
<p>【利便性が高く安全安心な魅力ある都市機能の再構築】</p> <p>・市民のまちに対する誇りを回復し交流促進を図るため、まちの歴史ある風情が残る結核川周辺の環境整備を行い、風情ある景観形成と交流の場を創出する。</p> <p>・市役所の移設が予定される位置は観光拠点となる結核川に隣接するため、相互に活用できるよう周辺を一体で整備する。このため現状の交通交差点や歩道のない区間を改良し、利便性・回遊性を高める。</p>	<p>・高層ビル創成(結核川周辺)・石造調度・潮明町・パンチ・緑化・桜木広場・キラキラパーク・小径・サウナ・集約館</p> <p>・道路改良(市道清町通線・市道金所小橋線)</p> <p>・地域生活基盤施設(地域防災施設・防災無線基地局等設備)</p> <p>・土地区画整理事業(大崎市役所周辺地区敷地整理型区画整理事業)</p>
事業実施における特記事項	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <p>・現在、地区内では商店街組合により、ふるかわ屋祭り・秋祭りの開催や商店街通りの舗装新築等、清掃活動などが行われ、にぎわいの創出と空間整備に努力している。</p> <p>・結核川周辺の環境整備については、これまで下水道事業計画を契機に景観形成にかかる意見交換の活動が行われている。</p> <p>・ボランティア団体「結核川清流化促進協議会」により、川の清掃や清掃活動、「まちづくり」や「まち歩き」イベントなど各種活動が多岐に実施されている。</p>	

大崎市 大崎市中心市街地地区

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

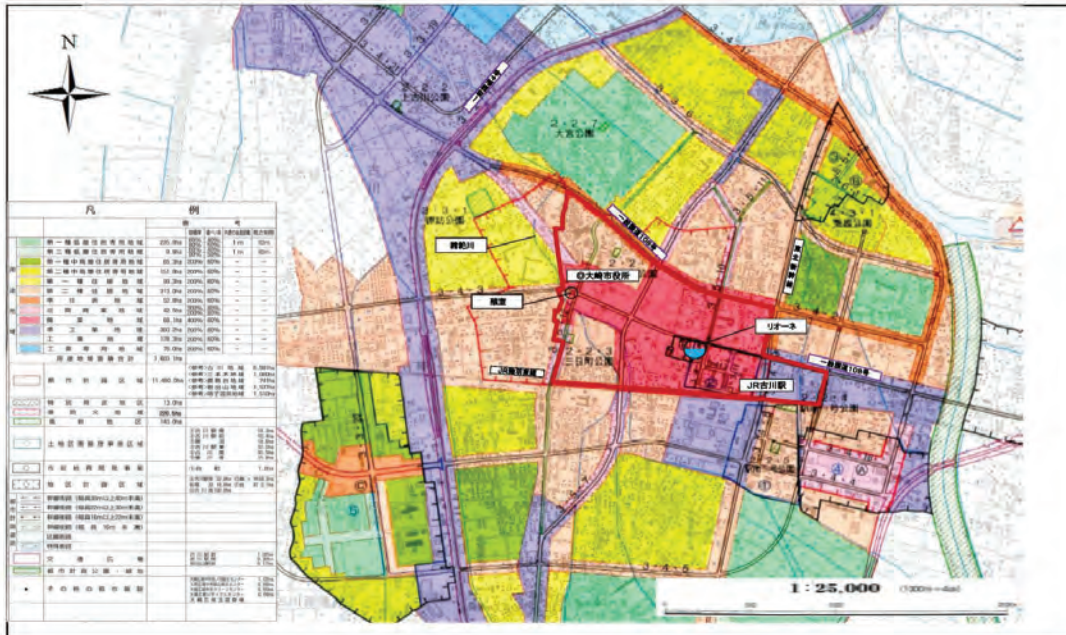
交付対象事業費	2,746.5	交付限度額	1,284.1	国費率	0.9%																					
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">事業</th> <th rowspan="2">細目</th> <th rowspan="2">事業箇所名</th> <th rowspan="2">事業主体</th> <th rowspan="2">道/府</th> <th rowspan="2">規模</th> <th colspan="4">〔事業/事業期間〕</th> <th rowspan="2">交付対象事業費</th> <th colspan="2">交付期間</th> <th rowspan="2">交付対象事業費</th> <th rowspan="2">交付率</th> </tr> <tr> <th>開始年度</th> <th>終了年度</th> <th>開始年度</th> <th>終了年度</th> <th>年度</th> <th>年度</th> </tr> </table>						事業	細目	事業箇所名	事業主体	道/府	規模	〔事業/事業期間〕				交付対象事業費	交付期間		交付対象事業費	交付率	開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	年度	年度
事業	細目	事業箇所名	事業主体	道/府	規模							〔事業/事業期間〕					交付対象事業費	交付期間			交付対象事業費	交付率				
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	年度	年度															
道路	道路改良	(市)通称道路	大崎市	道	110m	25	30	25	28	167	05.5	78.5	78.5	47.5	—											
道路	道路改良	(市)通称道路	大崎市	道	100m	25	31	25	27	271	11	11	11	11	—											
道路	道路改良	(市)通称道路	大崎市	道	179m	25	31	25	28	405.2	05.5	493	493	493	—											
公園	公園・緑地保全事業																									
河川	河川																									
下水道	下水道																									
交通安全	交通安全																									
地域生活	地域生活																									
高齢者	高齢者																									
観光	観光																									
防災	防災																									
国土	国土																									
文化	文化																									
子育て	子育て																									
社会福祉	社会福祉																									
環境	環境																									
住宅	住宅																									
都市	都市																									
その他	その他																									
合計						2015	27	27	27	27	304	304	304	304												

大崎市 大崎市中心市街地地区

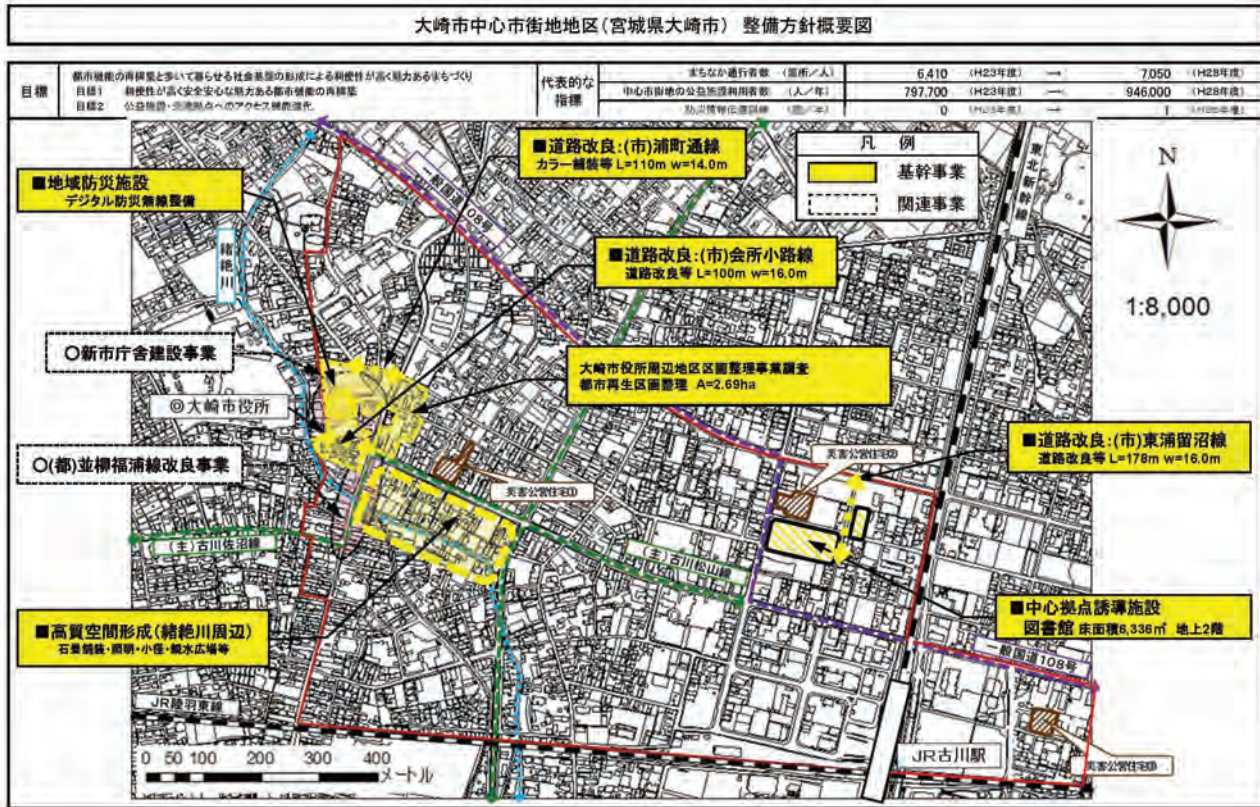
都市再生整備計画の区域

大崎市中心市街地地区(宮城県大崎市)

面積 99 ha 区域 宮城県大崎市古川七日町 外



大崎市 大崎市中心市街地地区



大崎市 大崎市中心市街地地区

様式2

都市再生整備計画 事後評価シート 大崎市中心市街地地区

平成29年3月
宮城県 大崎市

大崎市 大崎市中心市街地地区

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮城県	市町村名	大崎市	地区名	大崎市中心市街地地区	面積	99ha							
交付期間	平成25年度～28年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	2746.3百万円	国費率	0.468							
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ実施した事業	基幹事業	道路(市道清沼通線、市道会所小路改良工事)、地域生活基盤施設(地域防災無線)、高質空間形成施設(緑化等)、地方都市リノベーション推進施設(図書館)											
		提案事業	なし											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし											
		提案事業	なし											
新たに追加した事業	基幹事業	道路(東清沼沼線改良工事)		図書館へのアクセス性を高めるため追加		事業内容の変更はなく、影響なし								
	提案事業	土地区画整理事業(大崎市区所周辺地区区画整理事業(調査))		狭路道路と交差点の解消、新庁舎用地の確保及び宅地の再配置による中心市街地の利便性向上を図るため追加		-								
交付期間の変更	当初	平成25年度～29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		・計画変更に伴う基幹事業の増加や、道路改良及び高質空間形成について、権利者との調整等に時間を要したこと等より、当初の事業期間内での工事完了が見込めなくなったため、事業期間を短縮して調査・測量・設計・用地取得(一部)・工事(一部のみ)を行うこととし、工事等の一部事業については本地区で平成29年度から予定している第二期事業へ移行することとなった。変更により、目標「利便性が高・安全安心な魅力ある都市機能の再構築」及び目標「公益施設・交流拠点へのアクセス機能強化」に達成への影響が考えられるが、平成29年度以降の第二期事業の実施により引き続き整備を進めることで目標達成が見込まれる。									
	変更	平成25年度～28年度												
2) 都市再生整備計画に設定した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標年度	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
	指標1	まちなか通行者数	人/日	6,410	H23	7,050	H28	-	6,561	△	あり	●	中心市街地の魅力と利便性の向上によって、まちなか通行者数が増加したと考えられる。	-
	指標2	中心市街地の公益施設利用率	人/年	797,700	H23	946,000	H28	-	869,198	△	あり	●	中心市街地の公益施設の魅力の向上によって、利用率が増加したと考えられる。	-
	指標3	防災情報伝達訓練実施回数	回/年	0	H23	1	H28	-	1	○	あり	●	公益施設へのデジタル防災無線の整備によって迅速な防災情報伝達訓練が可能になった。	-
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標年度	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
	その他の数値指標1	中心市街地の空き店舗率	%	131	H23	-	-	-	6.6	△	あり	●	事業への補助や図書館の移転計画等により、中心市街地の空き店舗率の改善が見られたと考えられる。	-
	その他の数値指標2	生涯学習の推進と施設整備についての市民満足度	%	42.1	H23	-	-	-	46.2	△	あり	●	図書館の移転計画等により市民の満足度が向上したと考えられる。	-
	その他の数値指標3	水害、地震への防災対策についての市民満足度	%	36.67	H23	-	-	-	46.3	△	あり	●	デジタル防災無線や災害公営住宅の整備などにより市民の満足度が向上したと考えられる。	-
4) 定性的な効果発現状況	○図書館の整備によって中心市街地における文化・情報機能が充実し、市民文化活動の充実が期待される。 ○中心市街地における道路の整備によって交通利便性が向上するとともに、歩きやすい歩行者空間の確保が見込まれる。													
5) 実施過程の評価	モニタリング	なし	実施内容		実施状況		今後の対応方針等							
	住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に反映し、実施できた		都市再生整備計画に反映しなかったが、実施した		なし							
	特設的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に反映し、実施できた		都市再生整備計画に反映しなかったが、実施できなかった		● 今後は緑地川周辺の環境整備への継続的な市民参画を行い、市民と行政との協働を推進する。							
	特設的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に反映し、実施できた		都市再生整備計画に反映しなかったが、実施できなかった		● 今後は地元商店街との連携・活動支援を行い、中心市街地の活性化を推進する。							

大崎市 大崎市中心市街地地区

様式2-2 地区の概要

大崎市中心市街地地区(宮城県大崎市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標年度	評価値
まちなか通行者数	単位:人/日	6,410	H23	7,050
中心市街地の公益施設利用率	単位:人/年	797,700	H23	946,000
防災情報伝達訓練実施回数	単位:回/年	0	H23	1

大目標「都市機能の再構築と歩いで暮らせる社会基盤の形成による利便性が高く魅力あるまちづくり」
 目標1:利便性が高く安全安心な魅力ある都市機能の再構築
 目標2:公益施設、交流拠点へのアクセス機能強化

まちの課題の変化

- 合同庁舎節地を活用した図書館の移転によって、公益施設節地の有効活用や図書館の文化・情報機能の向上が期待される。
- 図書館周辺の道路の拡幅や歩道の整備によって、自動車アクセス性の向上や安心して歩ける歩行者空間の確保が期待される。
- 公共施設へのデジタル防災無線の整備や登録メール等の導入によって、緊急時の迅速且つ確かな情報伝達体制が構築され、防災機能が強化された。
- 災害公営住宅の整備や旧市民病院の解体による広域防災活動拠点整備用地の確保によって、安全・安心な暮らしのための防災機能が強化された。
- 考慮は図書館を中心とした中心市街地の活性化。まちなか通行者数の増加につながる歴史的魅力を活かした賑わいや魅力のある空間の形成。中心市街地へのアクセス性の向上などが課題となっている。

今後のまちづくりの方策(改善策をきむ)

- 図書館と周辺の公共施設、商店街、店舗などの連携の推進や図書館での市民の生涯学習活動や地域活動の推進により、図書館を中心とした周辺地域の活性化や多様な交流の促進を図る。
- 市役所の建て替えと連動した交通・福祉施設の集約整備や観光客にも魅力的な中心市街地の形成により、公益サービス機能の利便性の向上やまちなかの賑わいの創出を図る。
- 商店街や緑地川周辺の歴史的環境、景観、歩きやすいに配慮した歩行者空間の拡充やわかりやすいサイン(案内板、標識)の整備などにより、古川地らしい歴史的魅力の活用によるまちなかの回遊性・滞在性の向上を図る。
- 商店街との積極的な事業連携・支援や中心市街地の狭路道路と交差点の解消等により、中心市街地の活性化とアクセスの向上を図る。
- 中心市街地の利便性を高めると同時に、防災拠点としての機能を強化するために必要な機能拡充を行い、広域防災活動拠点としての更なる機能の強化を図る。

大崎市 大崎市中心市街地地区



図書館 整備後

大崎市 大崎市中心市街地地区



石畳舗装 整備後

大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）

様式(1)-j

都市再生整備計画(第6回変更)

おおさきしちゆうしんじがいちちくだいき

大崎市中心市街地地区(第2期)

(都市再構築戦略事業)人口密度維持タイプ

みやぎけん おおさきし

宮城県 大崎市

令和2年 1月

事業名	確認
都市構造再構築中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォーカーカブル推進事業	□

大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）

様式(1)-2

目標及び計画期間

計画期間	平成 28 年度	～	令和 3 年度	交付期間	平成 29 年度	～	令和 3 年度
計画期間	平成 28 年度	～	令和 3 年度	交付期間	平成 29 年度	～	令和 3 年度

目標

- 大目標:「みちのくの受け継 人とまち 絆とともにまちなかを再生」
- 目標1: 利便性が高く、活力を再生する都市機能の再構築
- 目標2: 災害への備えと支え合いがある安全・安心なまち
- 目標3: 気持ちよく歩き、憩い、暮らしたいまち

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の地域別立のための公的再編)の活用を旨として、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針(都市構造再構築中支援事業の発着)に設置すること、それ以外の場合は多様な再編を行うこと、本市は、一定の都市機能が集積している古川地域をはじめ、松山地域、三本木地域、豊島山地域、若山地域、鴨子温泉地域及び田尻地域からなり、総面積796.76㎡で県土の10.9%を占め、県内第2位の大きさを有している。大崎市都市計画マスタープランでは、古川地域の市街地を「広域交流拠点」、その他の地域の中心を「地域生活拠点」に位置づけ、集約型市街地の形成を目指している。

一方、古川地域の中心市街地では、大規模小売店の郊外立地による空洞化が進み、平成11年に古川-仙台間高速バスが開業すると大崎圏域の購買力が仙台圏域へ流出し、さらに空洞化が加速した。しかしながら、中心市街地にこれまで宮城県の商業中心地として果たした歴史から、大崎広域圏の交通の要衝として道路網が整備されており、まちなかも商店街通りが発達し、一部区間では買物地帯化が進んでいると高度なインフラが蓄積されている。

このような大崎市中心市街地の交通機能の優位性と既存インフラの蓄積を活かし、従来のまちの魅力を掘り出し、都市の再構築を図ること、利便性の高い都市への再生が可能である。そのため、大崎市立地適正化計画では、中心市街地を「都市構造適正区域」に位置づけ、都市機能の集約を図り、中心市街地の中心力の向上を図るとともに、まちの活動を止断するための居住誘導区域を設定し、「コア・カシオ・アップル・ネットワーク」の発着に向けて取組みを進める。

古川地域の「都市機能適正区域」は、JR東北新幹線駅である古川駅から市役所までの中心市街地を位置づけている。人口の急激な減少と高齢化を背景に高齢者や子育て世代によって安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、高齢者をほめたとする住民が公共交通により、公共施設、医療・福祉施設、商業施設などの生活利便施設等にアクセスできる都市構造を目指して、「二輪軸」構造(以下の2つのゾーンと 賑わい軸)の強化を図り、まちなかへの回遊性創出にむかひの軌道を図る。

【健康・福祉・歴史文化ゾーン】

- 中心市街地適正区域の整備により子どもが健全に育つための子育て支援体制の整備・充実を図る。計画地は未利用市有地(市民病院跡地)の利活用を図る。
- 災害対策の中心となる市役所跡に隣接させ、規模災害時に周辺地域の災害活動拠点、後方支援拠点となる広域防災活動拠点の整備により、大規模災害に備えた安全で安心なまちを形成する。計画地は未利用市有地の利活用を図る。
- 結絶川周辺の観光拠点整備と、老朽化した市役所の建替え計画と連動させ周辺の交通ネットワークを改善し、公共・公益サービス機能の魅力を高める。
- まちを特徴づける観光施設「歴史」を中心とした結絶川周辺の環境整備を進め、まちの魅力を掘り出し交流人口の拡大を図る。

【広域交流ゾーン】

- 古川駅前に移転した新図書館の利便性を高め、古川駅周辺と中心市街地への新たな交流人口の誘導を図る。

【賑わい軸】

- 商店街と周辺の地域資源が一帯となった賑わいのあるまちづくりを推進する。

まちづくりの経緯及び現状

本市は、中心市街地活性化の取組みとして、これまで再開発事業による「台町地区市街地再開発事業」の整備、観光・交流拠点である「結絶川周辺商業施設(歴史)整備」、「综合商業施設(イオン)整備」、「新図書館整備」の施設整備を実現している。東日本大震災を受け、平成24年度には「防災力の強化」と「活力にむかひの軌道」の観点から新たにまちづくり計画を行っており、地元及び宇備経験者で構成する委員会により「復興まちづくり計画」を策定し、東北地域の拠点都市である中心市街地を復興のシンボルとして再生を図ることを目指している。

市街地においては、市役所設備の老朽化、既設道路が多いなど、災害時の機能の脆弱性が懸念される。また駅から市役所までは商店街通りが東西南北に発達し、空洞化に伴う空き店舗等が目立つものの、商業活性化も一部は完了しており、まちの骨格となるインフラ整備が概ね整っている。しかしながら歩道のない区間と多く、また公園が少ないため歩行環境の改善が求められている。

中心市街地においては、子育て世代や高齢者の生活を支える、幼稚園・保育園・児童館等や高齢者福祉施設等が多く立地しているが、施設の老朽化や子育て環境の充実が求められている。特に「子育て支援センター」に園庭や児童室がないこと(中央児童館)の老朽化、結絶川駅周辺の環境整備などなどの改善が求められている。

東日本大震災では、市役所や様々な都市機能が集積する当地区は、壊滅的な被害を受けた沿岸部に対して広域的な交通ネットワークにより日本海側と太平洋側を結ぶ中継点、後方支援基地として重要な役割を果たした。観光拠点である結絶川周辺の「歴史」は、平成28年度より観光物産センターが整備され「まちの駅」に認定されている。また、江戸時代後期より終戦まで本地域の歴史・文化を色濃く残す数少ない歴史的な資源であり、文化的価値を保持し後世に継承していく価値が高まっている。

留意

- 【利便性、賑わい、活力】**
- 中心市街地の核となる商業施設・公益公共施設の利便性向上と、まちなか回遊性の向上。
 - 古いまち並みと歴史的資源・地域資源のまちづくりへの取り込み。
 - 安心して歩ける歩行空間の確保。
 - 郊外の自宅車庫を利用できない高齢者が日常生活に必要なサービスを受けることができるための三車機能の中心市街地への集約。
- 【安心・安全、支え合い】**
- 子育て家庭を社会全体で支援する体制、子どもが健全に育つための地域社会の形成。
 - 大崎市や周辺地域の防災力強化のため、中心市街地の利便性を活かした防災体制の構築。

大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）

<p>付帯プロジェクト(中長期)</p> <p>【総合計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本地区の中心市街地のある古川地区は、「安楽・連携・協働の拠点」として掲げられている。 <p>【復興復興計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本地区については、安全安心なまちづくりとして「災害に強いまちづくり・情報伝達機能の強化」が特にあることと復興として「まちが再生・活性化、伝統・文化の継承」が、復興と復興による新たな大崎の創生として「広域自立性を活かしたまちづくり」が掲げられている。 <p>【都市計画マスタープラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本地区はまちが再生の推進、安全安心な市街地の形成、商店街の復興・活性化、街並み景観の維持形成を都市づくりの方針としている。 <p>【復興まちづくり計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の計画として、「まちの歴史を未来へ語り継ぐ」「安全安心な暮らしと活力再生の拠点整備」「人とまちをつなぐまちが回遊路とまちの顔」をまちづくりの基本方針としている。 <p>【地方自治体協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てに関する相談体制を充実、放課後児童の安全で安心な居場所づくりなど、「子育て世代へのサポートの充実」を基本的方向に位置づけている。 																																	
<p>都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>都市構造再編集中支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地は、歴史的に広域の中心都市であった経緯から鉄道駅やバス・フェリーといった公共交通の結節機能、商店街の集積といった暮らしに即した商業機能や図書館、小中学校、市役所等の公共公益機能をもっており、 「広域交流センター」においては、JR古川駅近くに新駅・利便性及びアクセスが向上した新回遊路を利用して、教育文化機能の充実、そして駅と連動した交流機能の効果促進を図る。 「健康・福祉・歴史文化ゾーン」においては、観光拠点となる「結城川周辺拠点」の整備により、市民が笑顔と誇りを持って魅力あるまちの再生を図る。また、市役所建設に伴う一体的な「市役所周辺拠点」の整備、広域的な防災拠点と、休憩施設、健康・子育てサポート機能を集積する「広域防災活動拠点」により、都市機能の充実・再構築を図り、市民の利便性と安心安全の向上を図る。 上記のゾーンを結びつなぐ「まち」において、「土日町並み」の拠点による地域経済の活性化を図るとともに、「回遊路とまちの顔づくり」による回遊性と魅力の向上を図る。 既述市街地外縁部については、市民病院が建設されたこと、高速道路インターチェンジが近いことにより利便性を活かして医療機能について中心市街地と連携を図る。 <p>都市再生整備計画の目標を達成するための必要な誘導施設等の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 「広域交流センター機能」や「子育て支援センター機能」が集積する子育て支援施設を、アクセス性優れた「広域防災活動拠点」内に整備。親睦の集約・複合化とあわせて、園庭・駐車場を整備することにより、子育て支援環境の充実を図るとともに、周辺の施設と連携した、子どもが親同士の交流を活かす。 <p>都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業</p> <p>【目標1：利便性が高く、活力を再生する都市構造の再構築】</p> <p>七戸町駅周辺：「広域交流センター」や「市街地再生事業」などによる駅前・駅前周辺の地域資源が一体となったまちづくりを推進する。</p> <p>市役所周辺拠点：市役所の建設と合わせて「道路改良事業」「土地区画整理事業」などを実施することにより、市街地の利便性・回遊性の向上を図る。</p> <p>【目標2：災害への備えと支え合いがある安全・安心なまち】</p> <p>広域防災活動拠点：「駐車場」「防災広場」「消防庁舎建設事業」などにより、広域的防災活動拠点を整備する。</p> <p>子育て支援施設：子育て支援体制や、社会全体で支援する体制の充実を図る子育て支援施設を整備する。</p> <p>【目標3：気持ちよく歩き、思い、皆が楽しいまち】</p> <p>結城川周辺拠点：安全な風情が保たれる結城川周辺の環境整備を行い、風情ある景観形成と交流の場を創出する。</p> <p>回遊路とまちの顔づくり：誰もが気持ちよく歩ける歩行環境を整え、休息できる場や歩くことが楽しくなる場を街なかにつけ、気持ちよく歩ける・歩きたくなる環境を創出する。</p>																																	
<p>目標を定量化する指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">定義</th> <th rowspan="2">目標と指標及び目標値の関連性</th> <th colspan="2">目標値</th> </tr> <tr> <th>定府値</th> <th>実施年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中心市街地の公益施設利用回数</td> <td>人/年</td> <td>中心拠点区域における拠点施設(図書館・駅等・公園)利用者数の比較</td> <td>公益施設の利用者数の増加は、魅力ある都市構造の再構築がなされていることを示す。</td> <td>721,880</td> <td>H27</td> </tr> <tr> <td>子育て支援施設の利用回数</td> <td>人/年</td> <td>子育て支援施設の利用者数の比較</td> <td>子育て支援施設の利用者数の増加は、支え合いがある安全・安心なまちの再構築がなされていることを示す。</td> <td>45,207</td> <td>H27</td> </tr> <tr> <td>防災対策への満足度</td> <td>%</td> <td>総合計画市民意識調査「水害・地震などへの防災対策」の満足度スコア(古川地区全体)</td> <td>防災対策の満足度の増加は、災害への備えが強化されたことを示す。</td> <td>48.3</td> <td>H27</td> </tr> <tr> <td>まちが歩ける回数</td> <td>人/日</td> <td>施設実地者の中心市街地回遊性について、各ポイントに計測するまちが歩ける歩行回数比較</td> <td>中心市街地の回遊性が増加し、安心して通行できる歩行環境が形成され、まちの顔づくりが強化されたことを示す。</td> <td>4,944</td> <td>H27</td> </tr> </tbody> </table>		指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	目標値		定府値	実施年度	中心市街地の公益施設利用回数	人/年	中心拠点区域における拠点施設(図書館・駅等・公園)利用者数の比較	公益施設の利用者数の増加は、魅力ある都市構造の再構築がなされていることを示す。	721,880	H27	子育て支援施設の利用回数	人/年	子育て支援施設の利用者数の比較	子育て支援施設の利用者数の増加は、支え合いがある安全・安心なまちの再構築がなされていることを示す。	45,207	H27	防災対策への満足度	%	総合計画市民意識調査「水害・地震などへの防災対策」の満足度スコア(古川地区全体)	防災対策の満足度の増加は、災害への備えが強化されたことを示す。	48.3	H27	まちが歩ける回数	人/日	施設実地者の中心市街地回遊性について、各ポイントに計測するまちが歩ける歩行回数比較	中心市街地の回遊性が増加し、安心して通行できる歩行環境が形成され、まちの顔づくりが強化されたことを示す。	4,944	H27
指標	単位					定義	目標と指標及び目標値の関連性	目標値																									
		定府値	実施年度																														
中心市街地の公益施設利用回数	人/年	中心拠点区域における拠点施設(図書館・駅等・公園)利用者数の比較	公益施設の利用者数の増加は、魅力ある都市構造の再構築がなされていることを示す。	721,880	H27																												
子育て支援施設の利用回数	人/年	子育て支援施設の利用者数の比較	子育て支援施設の利用者数の増加は、支え合いがある安全・安心なまちの再構築がなされていることを示す。	45,207	H27																												
防災対策への満足度	%	総合計画市民意識調査「水害・地震などへの防災対策」の満足度スコア(古川地区全体)	防災対策の満足度の増加は、災害への備えが強化されたことを示す。	48.3	H27																												
まちが歩ける回数	人/日	施設実地者の中心市街地回遊性について、各ポイントに計測するまちが歩ける歩行回数比較	中心市街地の回遊性が増加し、安心して通行できる歩行環境が形成され、まちの顔づくりが強化されたことを示す。	4,944	H27																												

大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）

整備方針等

様式(1)-③

<p>計画区域の整備方針</p> <p>【利便性が高く、活力を再生する都市構造の再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業、住居、地域の交流センター、観光施設などがもたらした駅前・駅前周辺、商店街と周辺の地域資源が一体となったまちづくりを推進する。 災害時の司令塔となる市役所を確保するとともに、親睦拠点となる駅前周辺と駅前周辺の街並みを形成するため、周辺と一体を整備する。このため現在の広域交流拠点や歩道の保存・活用を改修し、親睦・回遊性を高める。 <p>【災害への備えと支え合いがある安全・安心なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民病院跡地を長寿施設に活用し、大規模災害時に周辺地域の災害活動拠点、後方支援基地としても機能する広域的な防災・災害活動拠点を整備する。 子育て支援センターを社会全体で支援する体制、子どもが健全に育つための地域社会を形成するため、子育て支援拠点施設の整備を図る。 <p>【気持ちよく歩き、思い、皆が楽しいまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民のまちに対する誇りを回復し、交流促進を図るとともに、まちの歴史ある風情が保たれる結城川周辺の環境整備を行い、風情ある景観形成と交流の場を創出する。 誰もが気持ちよく歩ける歩行環境を整え、休息できる場や歩くことが楽しくなる場を街なかにつけ、気持ちよく歩ける・歩きたくなる環境を創出する。 	<p>方針に合致する主要な事業</p> <p>【七戸町駅周辺拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (基幹) 高次都市施設(地域交流センター) (関連) 市街地再生事業 <p>【市役所周辺拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (基幹) 道路改良(市道清町通線、市道会所小路線) (基幹) 土地区画整理事業 (関連) 新市庁舎建設事業 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> (関連) 駅前並建連続線改善事業 (関連) 下水道事業 (関連) 市街地再生事業 <p>【広域防災活動拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (基幹) 道路改良(市道定機川原線外) (基幹) 地域生活基盤施設(駐車場) (基幹) 地域生活基盤施設(防災広場) (基幹) 高次都市施設(地域振興施設) (基幹) 中心拠点誘導施設(子育て支援施設) (関連) 消防庁舎建設事業 <p>【結城川周辺拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (基幹) 高質空間形成(結城川周辺) (効果) まちづくりのルールづくり <p>【回遊路とまちの顔づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> (基幹) 地域生活基盤(情報案内係) (基幹) 高質空間形成(市道清町通線/カラートレーニング) (基幹) 高質空間形成(市道千手寺前線/カラートレーニング) (基幹) 高質空間形成(市道七日町町通線/カーナビ誘導) (効果) 事業効果分析調査(成果の評価など)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 【市民との協働による事業の推進】 本事業の基本となる計画である「大崎市中心市街地復興まちづくり計画」の策定にあたっては、「市民・住民」によって組織された「中心市街地復興まちづくり委員会」で検討を行っており、市民との協働による事業の推進を図っている。 【中心市街地の活性化】 大崎市では、平成11年(旧)古川市中心市街地活性化基本計画を策定するとともに、平成20年度に「大崎市中心市街地活性化推進プラン」を策定している。平成4年度にTMO組織である「株式会社 まちづくり古川」が組織され、官と民のパートナーシップによる中心市街地の活性化に取り組んでいる。 平成17年度に歴史的建造物の保存・活用を目的とした元高輪線(駅舎)を整備することにより、平成18年度に中心市街地活性化を目的とした商業施設「イオン」を創設し、TMO組織と連携し、中心市街地の賑わい創出に貢献している。 【まちづくりの住民参加】 現在、地区内では商店街組合等により、ふるかわ夏祭り、祭りの開催や商店街通りの植樹帯管理・清掃活動などが行われ、にぎわいの創出と空間整備に努めている。また「まちづくりマップ」、「四季祭通り(はっぴ)」、「土日町並み」などの商店街活性化にコミュニティが取り組まれている。 古川まちづくり協議会では、中心市街地の賑わい創出や産業振興を目的とした「古川朝市」を推進している。 結城川周辺の環境整備については、これまで下水道事業計画を契機に景観形成にかかわる意見交換の活動が行われている。 「コミュニティ団体(結城川清流化促進協議会)による、川の放流や清掃活動(まちづくり)」「電気の、カーシェア」など各種活動が多彩に実施されている。 	

大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）

様式2

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

大崎市中心市街地地区（第2期）

令和5年3月

宮城県 大崎市

大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮城県	市町村名	大崎市	地区名	大崎市中心市街地地区			面積	99ha			
交付期間	平成29年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	2977百万円	国費率	0.5				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(1市)補助道線、(市)養老小路線、(市)法橋河原線外)、地域生活基盤施設(駐車場(広域防災活動拠点施設)、情報案内板、防災広場(広域防災活動拠点施設)、高質空間形成施設(緑地利用周辺高質空間整備施設、カウー施設(補助道線、千手寺前線、七日町通線)、高次都市施設(交通施設、地域集約施設)、中心拠点誘導施設(子育て支援施設)、土地区画整理事業(市役所周辺地区整理))									
		提案事業	なし									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし									
		提案事業	なし									
	新たに追加した事業	基幹事業	なし									
	提案事業	旧都市再生整備計画で実施予定していた効果促進事業(事業効果分析調査(まちづくりのルールづくり))について、都市構造再編集中支援事業への移行により提案事業として実施したため追加した。また、移行に伴い、都市構造再編促進検討調査も実施することとした。										
交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、目標、数値目標への影響									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	中心市街地の公益施設利用者数	人/年	721,890	H27	1,043,000	R3	799,165	△	あり なし	新型コロナウイルス感染症の流行による各施設の利用率等の影響で目標には及ばなかったが、道路整備等による道路性の向上により確実に利用者が増えていると考えられる。	フォローアップ予定時期
	指標2	子育て支援施設の利用率	人/年	43,207	H27	58,000	R3	25,778	×	あり なし	新型コロナウイルス感染症の流行による施設の利用率により、利用率を下げた結果となった。また、コロナ禍で児童発達支援センターも減額であったため、施設整備や安心安全な移行環境の整備が求められた影響によるものと考えられる。	---
	指標3	防災対策への満足度	%	45.3	H27	50.0	R3	38.0	×	あり なし	防災施設整備に実施した日本有識者による定量化に関する調査の発生や住民ニーズの多様化が影響していると考えられる。	---
	指標4	まちなか通行者数	人/年	4,944	H27	5,500	R3	4,191	△	あり なし	新型コロナウイルス感染症の流行による行動制限の影響により、利用率を下げた結果となったが、14年度では上記に概した。まちなか通行者の回復は今後も継続されることから、引き続き目標としているものとする。	---
	その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果促進状況	その他の数値指標?	子育て支援と保育サービスの充実	%	41.3	H27			429			効果促進要因(総合所見)
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の道路網の整備により、歩行者・自転車の通行に安心安全度が期待している。 中心市街地の道路網の整備、市庁舎の建て替え、地域交流センター、地域集約施設の開設、防災広場等の整備により、1階で整備された図書館等と併せて都市機能の充実が図られている。 子育て支援施設の整備や家内版の設置による施設利用の促進や利便性の向上により、まちなか居住の形成に寄与している。 											
5) 実施過程の評価	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった							今後の対応方針		
	住民参加プロセス	経路利用周辺の環境整備については、これまで下水道事業計画を実施し景観形成に係る取組みが行われている。	都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった							今後とも緑地利用周辺の環境整備への継続的な住民参加や地元商店街との連携・活動を行い中心市街地の活性化を進める。		
	持続的なまちづくり体制の構築	定期的なイベントを開催し市街地の活性化を図った。また、チャレンジショップへの開業支援や空き店舗補助金の事業者への支援を行った。	都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載しなかったが、実施できなかった							今後とも空き店舗等の補助金の活用や地元商店街との連携・開業支援を行い、中心市街地の活性化を進める。		

大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）

様式2-2 地区の概要



大崎市 大崎市中心市街地地区（第2期）



道の駅 施工後